

トルクメン語入門テキスト

福盛貴弘・竹内和夫・奥真裕 著

大東文化大学語学教育研究所

2023年3月

トルクメン語入門テキストまえがき

『トルクメン語入門 ―キリル文字編―』を科学研究費による成果物で刊行してから、10年以上の年月が経ちました。私の病気や、出版社との交渉による諸事情によって、その後遅々として改訂版の刊行が進みませんでした。今回こういう形でテキスト部分を公開することができました。

キリル文字版をラテン文字版にするに至って、改訂を始めた当時、東京外国語大学の大学院生であった奥真裕氏がトルクメン語を専攻するという話を聞き、新たに共著者として加わっていただけるよう打診しました。その結果ご快諾をいただくことができましたので、3人目の執筆者として名前を加えることになりました。奥氏は、2012年9月から2014年1月までトルクメニスタン国立アザディ世界言語大学で日本語教師として勤務しながら、現在の生きたトルクメン語を習得されております。キリル文字版をラテン文字版に改訂するための編集作業の一部をお願いいたしました。今回刊行されたラテン文字版については、奥氏あつての著書だと言えるでしょう。

本テキストは、元のキリル文字版の原稿が1978年に竹内先生がトルクメニスタンを訪れた際の調査がもとになっており、1978年の小学校の教科書『türkmen dili』がもとになっています。現在の教科書は、旧ソビエトに関わる部分はかなり改訂されていますが、ことばの説明に関する基礎的な部分は大きく変わっていません。そういう点では、今も使えるものだと思っております。なお、IPA表記は、竹内先生が当時の音声で記述されたものをそのまま用いています。

また、トルクメン語式ラテン文字で示した本文に対して、注釈（グロス）は、キリル文字版の時の名残で、トルコ語式ラテン文字で示しております。トルコ語が分からない方にとっては分かりにくいという声もあ

りましたが、現行のトルクメン語のアルファベット表記で理解できれば、問題ないかと思っております。

いろいろ紆余曲折を経てきましたが、無事刊行にまでこぎつけられたことを心より喜んでおります。また、刊行にあたり、大東文化大学語学教育研究所のスタッフならびに関係各位から、多大なる尽力が得られたことについては、心より感謝申し上げます。

本書を通じて、皆様方に新しい世界が開かれることを心より祈念いたします。

2023年3月

編著者を代表して 福盛貴弘

<付記>本書は、JSPS 研究費 JP17K02690, JP20K00581 の助成を受けた成果となっています。

トルクメン語入門テキスト

まえがき	2
目次	4
1. 文字と発音練習	6
2. テキストの訳注（小学校1年教科書）	12
練習 1	13
練習 2	17
練習 3	22
練習 4	25
練習 5	29
練習 6	33
練習 7	37
練習 8	40
練習 9	43
練習 10	45
練習 11	54
練習 12	57
練習 13	60
練習 14	62
練習 15	63
練習 17	65
練習 20	69
練習 22	71
練習 24	75
練習 27	76
練習 29	79
練習 30	81
練習 31	83
練習 32	84
練習 33	87
練習 36	89
練習 37	92
練習 38	94
練習 39	95
練習 40	97
練習 41	99
練習 42	100
練習 45	102
練習 46	104
練習 47	105
練習 48	107
練習 49	108
練習 52	113
練習 58	115
練習 72	116
練習 80	119
練習 91	121
練習 99	122
練習 119	123
練習 120	125
練習 125	126
練習 131	128
練習 133	130
練習 149	131
練習 151	133
練習 227	136
練習 235	138
3. Görogly について（百科事典の解説）	140

【いろいろな単語 1】	＜曜日名＞	28
【いろいろな単語 2】	＜州・都市名＞	32
【いろいろな表現 1】	＜あいさつなど＞	36
【いろいろな表現 2】	＜あいさつなど＞	39
【いろいろな単語 3】	＜山・海・川など＞	53
【いろいろな表現 3】	＜時の表現＞	59
【いろいろな単語 4】	＜大統領の名前、政党名＞	68
【いろいろな単語 5】	＜方角・方向の表現＞	91

1. 文字と発音練習

トルクメン語の現行のアルファベットは、1995年に改訂されました。ž, ñ, ş, ýの表記が改訂されており、現在では教科書や辞典や新聞などで用いられています。キリル文字アルファベットは38文字でしたが、新しいアルファベットは30文字となっています。以下に一覧を示します。

番号	活字体	呼び名	そのカナ表記	主な音価 IPA	キリル文字 との対応
1	A a	a	アー	ɑ, ɑ:	А а
2	B b	be	ベー	b	Б б
3	Ç ç	çe	チェー	tʃ	Ч ч
4	D d	de	デー	d	Д д
5	E e	e	エー	e, ε	Э э, Е е
6	Ä ä	ä	アエー	ɛ(:), æ(:)	Ә ә
7	F f	fe	フェー	f	Ф ф
8	G g	ge	ゲー	g, ɣ, ɣ	Г г
9	H h	he	ヘー	x, χ	Х х
10	I i	i	イー	i, i:	И и
11	J j	dže	ジェー	dʒ	Ж ж
12	Ž ž	že	ジュエー	ʒ	Ж ж
13	K k	ka	カー	k, q, x	К к
14	L l	el	エル	l	Л л
15	M m	em	エム	m	М м
16	N n	en	エン	n	Н н
17	Ñ ñ	eñ	エング	ŋ	Ң ң
18	O o	o	オー	o, o:	О о

19	Ö ö	ö	オエー	ø, ø:	Ө ө
20	P p	pe	ペー	p	П п
21	R r	er	エル	r	Р р
22	S s	es	エス	θ	С с
23	Ş ş	şe	シェー	ʃ	Ш ш
24	T t	te	テー	t	Т т
25	U u	u	ウー	u, u:	У у
26	Ü ü	ü	ユー	ʏ	У у
27	W w	we	ヴェー	w	В в
28	Y y	y	ウー	i, i:	Ы ы
29	Ý ý	ýe	イエー	j	Й й
30	Z z	ze	ゼー	ð	З з

長音については、正書法では表記されませんが、本書では便宜的に ā, ē のように母音の上にˉを付けて記しているところもあります。

	ラテン	IPA	カナ	意味
A a	at	[ʔat]	アット	馬
	āt	[a:t]	アート	名前
	çāga	[tʃa:ɣa]	チャーガ	こども
	orak	[orək]	オロック	鎌
B b	bār	[ba:r]	バール	...がある
	ōba	[o:βa]	オーバ	村
Ç ç	çāga	[tʃa:ɣa]	チャーガ	こども
	üç	[ʏtʃ]	ユチ	3
D d	dört	[dø:rt]	ドヨールト	4
	depder	[dɛptɛr]	デプテル	ノート

E e	ýedi	[jɛdi]	イエデイ	7
	her	[xɛr]	ヘル	それぞれ
	eýer	[ɛjɛr]	エイエル	鞍 (くら)
	düýe	[dʏɛ]	デュエ	ラクダ
	erik	[ɛrik]	エリッキ	アンズ
	eje	[ɛdʒɛ]	エジエ	母
Ä ä	ālem	[ɛ:lɛm]	エーレム	世界
	şäher	[ʃɛxɛr]	シェヘル	町
	bāş	[bjɛ:ʃ]	ビエーシ	5
F f	foto	[foto]	フォト	写真
G g	gāz	[Ga:ð]	ガーズ	がちょう
	göz	[gøð]	ギョズ	目
	çāga	[tʃa:ɣa]	チャーガ	こども
	bāg	[ba:ɣ]	バーグ	庭
H h	harp	[xarp]	ハルプ	文字
	mýhman	[mi:xman]	ムーハマン	客
I i	iki	[iki]	イキ	2
	demir	[dɛmir]	デミル	鉄
J j	jāy	[dʒa:j]	ジャーイ	建物
	jorap	[dʒorɔp]	ジョロップ	靴下
Ž ž	žurnal	[ʒurnɑ:l]	ジュルナル	雑誌
	etaž	[ɛta:ʒ]	エタージ	階
K k	kitāp	[q'it'a:p]	キタープ	本
	mekdep	[mɛxtɛp]	メクテップ	学校
	sowuk	[θowuk]	ソウック	寒い
	türkmen	[tyrkmen]	テュルクメン	トルクメン
L l	alty	[ʔaʎti]	アルトゥ	6

	gül	[gɯl]	ギユル	花
M m	mekdep	[mextɛp]	メクテップ	学校
	demir	[dɛmir]	デミル	鉄
	kākam	[qɑ:qɑm]	カーカム	わたしの父
N n	nār	[nɑ:r]	ナール	ザクロ
	gün	[gɯn]	ギユン	日
Ñ ñ	okañ	[ʔoqɑŋ]	オカン	読みなさい
	biziñ	[bɪðiŋ]	ビジン	われわれの
O o	okañ	[ʔoqɑŋ]	オカン	読みなさい
	ōba	[o:βɑ]	オーバ	村
	goýun	[Gojun]	ゴユン	羊
Ö ö	öý	[ʔøj]	オエイ	家
	dört	[dø:rt]	ドョールト	4
	söz	[θøjð]	ソイズ	単語
P p	pagta	[pa:xtə]	パークタ	綿
	harp	[xɑrp]	ハルプ	文字
R r	çörek	[tʃø:rək]	チョロック	パン
	gār	[Gɑ:r]	ガール	雪
S s	ses	[θeθ]	セス	音
	sāgat	[θɑ:ɣat]	サーガット	時計
	asman	[ʔɑθman]	アスマン	空
	sirk	[tsirk]	ツィルク	サーカス
	sifr	[si:βr]	スィーブル	数字
Ş ş	şar	[ʃɑ:r]	シヤール	風船
	bāş	[bje:ʃ]	ビェーシ	5
T t	top	[tʔop]	トップ	ボール
	it	[ʔit]	イット	犬

U u	uzȳn	[uðø:n]	ウズーン	長い
	ūn	[ʔu:n]	ウン	粉
	sūrat	[θu:rət]	スーロット	絵
Ü ü	üç	[ʏtʃ]	ユチ	3
	gül	[gʏl]	ギュル	花
	güýç	[gʏjtʃ]	ギュイチ	力
	türkmen	[tʏrkmen]	テュルクメン	トルクメン
W w	we	[wə]	ウェ	そして
	towuk	[towuq]	トウック	雌鶏
	suw	[θuw]	スウ	水
Y y	yssy	[iθθi]	ウッス	暑さ
	gȳz	[Gijð]	グイズ	娘
	sāry	[θɑ:ri]	サール	黄色
Ý ý	ýaş	[ja:ʃ]	ヤーシ	若い
	derýā	[derja:]	デリヤー	川
	ýirgrimi	[ji:rmı]	イールミ	20
	söýýār	[θøjja:r]	ソイイエール	愛している
	āý	[ɑ:j]	アーイ	月
	ýöl	[jo:t]	ヨール	道
	ýorgan	[jorGøn]	ヨルゴン	ふとん
	ýūka	[ju:qɑ]	ユーコ	薄い
	goýun	[gojun]	ゴユン	羊
	Z z	zāt	[ðɑ:t]	ザート
biziñ		[biðiŋ]	ビジン	われわれの
gȳz		[Gijð]	グイズ	娘

<参考> トルコ語のアルファベットと音価

a, b, c[dʒ], ç[tʃ], d, e, f, g, ğ[長音化/無音], h, ı[w], i, j[ʒ], k, l, m, n, o, ö[ø], p, r, s, ş[ʃ], t, u, ü[y], v, y[j], z

※アルファベットの対照

トルクメン語	トルコ語
ä	無し (グロスでは ä)
j	c
ž	j
ň	無し (グロスでは ŋ)
w	v
y	ı
ý	y

2. テキストの訳注（小学校1年教科書）

М. ХАМЗАЕВ, Р. БЕРДИЕВ, С. КҮРЕНОВ,
Ы. СЕЙИСОВ, Б. ЧАРЫЯРОВ

ТҮРКМЕН ДИЛИ

ГРАММАТИКА ВЕ ДҮРС ЯЗУВ

1-нжи КЛАС УЧИН

Он алтынжы нешир

*ТССР Халк магарыф министрлиги тарапындан
стабил окуп китабы хөкмүнде тассыкланды*

«МАГАРЫФ» НЕШИРЯТЫ

Ашгабат 1978

< 練習 1 : 本文 >

§ 1. Ses we harp

1-nji gönükme

Suratlaryň aşagyndaky sözleri okaň.



Gaz.

Gül.

Top.

Ýokarky sözlerde haýsy sesleriň
bardygyny aýdyň.

<練習 1 : 解説>

§ 1. Ses we harp.

Paragraf birinci. Ses ve harp.

[para:grəf birindzi θeθ wə xarp]

パラグラフ ブルンジ セス ウェ ハルプ

節 第1 音 と 文字

1-nji gönükme. Suratlarıň aşagyndaky sözleri okaň.

Birinci gönükme. Sūratlarıň aşāgındakı sözleri okaň.

[birindzi gø:nükme θu:rəttin 'aʃa:nnaqi θøjðderi 'ʔoqaŋ]

ブルンジ ギョーヌックモ スーロットルン アシャーナナキ ソイズデリ オカン

第1の 練習 絵の 下の 単語を よみなさい

Gaz.

Gül.

Top.

Gāz.

Gül.

Top.

[ga:ð

guʃ

t'op]

ガーズ

ギュル

トップ

ガチョウ

花、バラ

ボール

Ýokarky sözlerde haýsy sesleriň bardygyny aýdyň.

Yokarkı sözlerde haysı sesleriň bārdıgını aydın.

[joqərki θø:ðdırdə xəjθ θεθθerin b^wa:rdi·ni 'ʔajdiŋ]

ヨコルキ ソーズデルデ ハイス セッセリン バールドウヌ アイドゥン

上の 単語に どんな 音の あることを 言いなさい

Birinji は bir-inji からなっていて、bir が「1」で-inji は順序数をつくる接尾辞です。「2」iki ならば iki-nji 「第二、二番目」のように、母音おわりの語には-nji が接尾します。これは、すぐ下に出てくるように名詞の修飾語にもなりますから、birinji paragraf とも言えます。

Ses の s はいつも英語の thank の th のような音をあらわします。z もその有声音[ð]です。

harp の h は、たいていドイツ語 Bach の ch のような、軟口蓋の摩擦音[x]です。

Sūratlaryň は Sūrat-lar-yň からなっていて-lar は複数語尾、-yň は所属格語尾「の」です。これら接尾の順序は一定しています。

aşägyndaky は aşäk-y-n-da-ky のように分析でき、aşäk 「下」のおわりの-k は母音がつづいたため有声化し、-y は限定語尾とって、「絵（複数）の」と限定修飾されたもの、すなわち「その下」を意味します。-da は位置格「に」の語尾、それに-ky がつくると形容詞化し、「その下にある…」ができます。そのまえの-n-は、限定語尾と格語尾とのあいだに、いつも出てくる子音です。

söz-ler-i と分析し、-ler は複数語尾、-i は対象格「を」の語尾です。sūrat-lar のときは sūrat の a が後母音でしたから、母音調和して-lar が接尾し、söz の ö は前母音ですから-ler が接尾しています。前母音は i, ü, ö, e, ä で、後母音は y, u, o, a です。

oka-ň と分析し、-ň は命令形第 2 人称複数の語尾です。動詞語幹は oka だけで命令形単数として使うことができます。トルクメン語の辞書で動詞の見出しは okamak 「読むこと」のように名詞形で出ていますが、この本のうしろの単語集では、語幹だけを oka- の形で出しています。複数は敬語にもなります。

Gāz のガは日本語のガよりもっと奥の発音です。

söz-ler-de の-de は母音調和による位置格の語尾です。

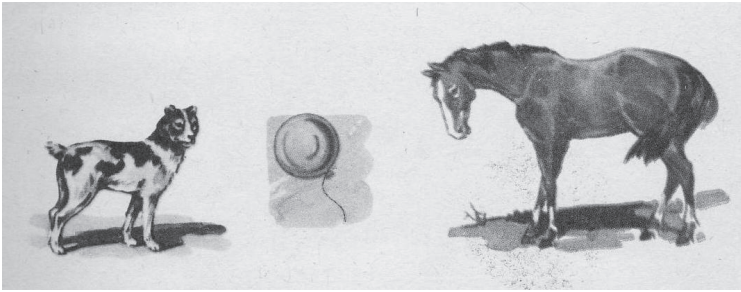
bār-dyg-y-n-y のはじめの bār は「…がある、いる」という形容詞（動詞ではない）で、パールと発音されます。動詞の bar-（バル）「行く」とは母音の長さで区別されます。うしろの単語集では bār と bar-のように書きわけてあります。āt「名」と at「馬」などもそうです。つぎの-dyg は古くは i-dik という単語であったものが接尾辞化したものと考えられます。i-は「…である」、-dik は完了を示す連体形です。直前の- iň と結合して限定語尾-i がついて名詞化し、同時に k→g と有声化します。

áy-d-yň の語幹は aýt-ですが、あとに母音がついたので有声化しています。-yň は-okañ の-ň と同じものです。

< 練習 2 : 本文 >

2-nji gönükme

Suratlaryň atlaryny kesme harplardan düzüň.



It.

Şar.

At.

Düzen sözleriňizde haýsy harplar bar?
Sesi aýdýarys, harpy ýazýarys. Harp
sesiň ýazuw belgisidir.

<練習 2 : 解説>

2-nji gönükme. Suratlaryň atlaryny kesme harplardan
 İkinci gönükme. Sūratlaryň ātlarını kesme harplardan
 ['ikindzi gø:nükme θ:rəttirij a:tlərini kʲ'εθmə χaplərdən

イキンジ ギョーヌックモ スーロットルン アートルルヌ ケスメ ハルブラルダン

第2の 練習 絵の 名前を 切り 文字で

düzüň.

düzüj.

'dʏðʏj]

デュズン

つづりなさい

It	Şar	At.
İt.	Şar.	At.
[ʔit	ʃa:r	ʔat]
イット	シャル	アット
犬	風船	馬

Düzen sözleriňizde haýsy harplar bar?

Düzen sözleriňizde haysı harplar bār?

[dʏðən θøjdırırıđðe χaʃθ χaplər ba:r]

デュズン ソイズデリンギズゼ ハイス ハルブラル バール

つづった 単語に どんな 文字 がある？

Sesi aýdýarys, harpy ýazýarys.

Sesi aydyāris, harpı yazıāris.

[θeθi aʃdja:rθ χarpı jaðja:rθ]

セスイ アイデヤールス ハルプウ ヤズヤールス

音を 出します 文字を 書きます

Harp sesin̄ ýazuw belgisidir.

Harp sesinj yazuv belgisidir.

[χarp θeθiŋ jaðuw belgıθıdər]

ハルプ セスィン ヤズウ ベルギスティル

文字は 音の 書き 記号です

āt-lar-y-n-y と分析し、{名前・複数語尾・限定語尾・つなぎ子音・対象格語尾} の順に規則的に接尾しています。

kesme の語幹は kes- 「切る」で -me は名詞化する接尾辞です。

harp-lar-dan の -dan は起点格「より、から、によって」の語尾です。切り文字というのは、この教科書に入る前に harplyk 「文字」という本があって、その本にはさんであるアルファベットの文字紙のことで、一字一字切りはなして使うようになっているものをさしています。

たとえば：

И	т
---	---

Ш	а	р
---	---	---

А	т
---	---

düz-ün̄ の語幹は düz 「つづる」で、-ün̄ は -ñ̄ ~ -iñ̄ ~ -yñ̄ ~ -uñ̄ ~ -üñ̄ の 5 種類に交替してあらわれます。母音おわりの語幹には -ñ̄ が、子音おわりの語幹には母音調和によって 4 つのうちひとつが選ばれます。Düz-en の -en (後母音のときは -an) は、完了の連体形語尾で、つづく名詞を修飾しています。

söz-ler-iñiz-de と分けられます。-iñiz は名詞につく第 2 人称複数の人称語尾で、「君たちのものである、君たちに属する」を意味します。名詞に接尾する順序は規則的につぎのようになっています：

語幹 + 複数語尾 + $\left. \begin{array}{l} \text{人称語尾} \\ \text{限定語尾(n)} \end{array} \right\} + \text{格語尾}$

ただし、複数語尾と人称語尾の順序に例外があります。それは **atā-m**「私のおじいさん」に **-lar** がついて「おじいさんたち＝おじいさんの家族」のような場合です。それから、**Düzen** と **sözleriñiz** との修飾関係について注意してください。**düz-ül-en sözler**「つづられた語（-ül は受け身の接尾辞）」とくらべると、後者は **sözler** が **düzül-**という動作の主体であるのに対し、前者は **sözler** が **düz-**の対象です。この前者のような修飾関係にあるとき、修飾される名詞に人称（限定）語尾が必要です。

Sesi と **hapy** の **-i, -y** は対象格「を」の語尾ですが、限定された対象を示します。ここでは、いま発音し書いているものを指しています。「5本鉛筆買った」の「鉛筆」**galam** などは対象格語尾を必要としません。すなわち、**Baş galam aldy.** (**al-**「買う」、**-dy** 完了終止形)。それに反して、固有名詞；複数語尾、限定語尾、人称語尾のついた名詞は、かならず対象格語尾を必要とします。

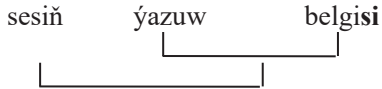
ayd-yār-ys, ýaz-yār-ys の **-yār**（前母音のときは **-ýār** イェール）は、未完了の終止・連体形です。進行形としても、よく使われます。最後の **-ys**（前母音のときは **-is**）は第1人称複数を示します。この文には主語に相当するものが文頭にありません。人称代名詞 **Biz**「われわれ」を文頭においてもよいのですが、とりたてて言う以外は必要ありません。さきほどの「鉛筆買った」のが「私」なら、**Baş galam al-dy-m.**とします。**-m** が第1人称単数の人称語尾です。

Harp はこの文の主題になっていますが、主格の語尾はなく語幹そのままの形を使います。

ýaz-uw は動詞語幹「書く」に名詞化の接尾辞がついています。**oka-**「読

む」の名詞形は *oka-w*→*okuw* と変わります。

belgi-si-dir の *-si* は子音おわりの語幹につく限定語尾で、*belgi* が *ýazuw* と結びついていることを示し、同時に *sesiñ* とも呼応して、



のような修飾関係にあることを示します。ただし限定語尾は普通ダブって接尾されません。*dir* は「である」を示す付属語ですが、正書法では前の語につづけて書かれます。

<練習 3 : 本文>

3-nji gönükme

Sözleri göçürüň.

Nar, gar, aý, taý, surat, göz, gyz.

Göçüren sözleriňiziň her birinde näçe
ses bardygyny aýdyp beriň.

<練習 3 : 解説>

3-nji gönükme. Sözleri göçürin.

Üçünci gönükme. Sözleri göçürin.

[ytʃʏndʒɪ gø:nʏkme θøjðdɪrɪ gøtʃɪrɪŋ]

ユチュンジ ギョーヌクモ ソイズデリ ギョチリン

第3の 練習 単語を うつしなさい

Nar, gar, aý, taý, surat, göz, gyz.

Nār, gār, āy, tay, sūrat, göz, gīz.

[nɑ:r ɡɑ:r a:j t'ʌj θu:rət gøð gi:jð]

ナール ガール アーイ タイ スーロット ギョズ グイズ

ザクロ 雪 月 子馬 絵 目 娘

Göçüren sözleriňiziň her birinde näçe ses bardygyny

Göçüren sözleriňiziň her birinde näçe ses bardygını

[gøʃyɾn θøjðdɪrɪŋdɪŋ xer bɪ:rɪnnɛ 'næ:tʃɪ θeθ bɑ:rɪdɪni

ギョシュルン ソイズデリンズィン ヘル ビーリンネ ネーチ ゼス パールデネ

うつした 単語の それぞれ ひとつに いくつの 音 があることを

aýdyp beriň.

aydyp beriň.

aldıp 'beriň]

アイドゥップ ベリン

言って ください

Üç-ünji の接尾辞は母音調和によって -nji ~ -njury ~ -inji ~ -ynjury ~ -ünjury ~ -unjury と交替してあらわれます。

Söz-ler-i göçür-iñ と分析し、語尾はいずれも前に出てきましたから復習してください。

Göçür-en の -en は、完了の連体形語尾です。

bir-i-n-de と分析され、-i は sözleriñiziñ と呼応する限定語尾です。限定語尾と格語尾（ここでは位置格）とのあいだに、いつも出てくるのが -n- です。

ayıd-yp は語幹 aýt- に連用形語尾 -yp がついた形です。連用形は文を中止させたり、つづく動詞の修飾語になったりします。母音調和による交替形は -(i, y, ü, u)p ですが、調和の法則は：

語幹末母音	接辞の母音
前舌で円唇でない i, e, ä のとき	i
前舌で円唇である ü, ö のとき	ü
後舌で円唇でない y, a のとき	y
後舌で円唇である u, o のとき	u

beriñ の語幹 ber- は「与える、やる、くれる」を意味しますが、助動詞としては「…してくれる」という日本語に近い形で使うことができます。ayıdyñ より丁寧な感じです。

< 練習 4 : 本文 >

4-nji gönükme

Okaň we göçüriň.

Kitaby gowy görüň. Kitaby arassa saklaň. Kitap bilim berýär. Kitap siziň dostuňyzdyr.

Bu sözleriň her birinde haýsy harplaryň bardygyny aýdyň.

<練習 4 : 解説>

4-nji gönükme. Okañ we göçürinñ.

Dördünci gönükme. Okañ ve göçürinñ.

[dø:rndʒi gø:nʏkmø ʔoqañ w gø'tʃirɯŋ]

ドヨールンジ ギョーヌクモ オカン ウ ギョチルン

第4の 練習 読みなさい そして うつしなさい

Kitaby gowy görüñ. Kitaby arassa saklañ.

Kitābı govı görüñ. Kitābı arassa saklañ.

[q'it'ɑ:bi goi gøɾɯŋ q'it'ɑ:bi 'ʔaraθθɑ θɑqlaŋ]

キタービ ゴイ ギョルン キタービ アラッサ サ克蘭

本を 愛しなさい 本を きれいに しておきなさい

Kitap bilim berýär. Kitap siziñ dostuñyzdyr.

Kitāp bilim beryär. Kitāp siziñ dōstuñızdır.

[q'it'ɑ:p bilm birjɛ:r q'it'ɑ:p θiðɯŋ dɔ:θi'ŋiðnir]

キタープ ビリム ベリェール キタープ スィズィン ドーステングズヌル

本は 知識を くれます 本は 君たちの 友だちです

Bu sözleriñ her birinde haýsy harplaryñ bardygyny

Bu sözleriñ her birinde haysı harplarıñ bārdıgını

[bu θøjðdriŋ xer bi:rinne χɑjθ χɑrpløriŋ b^wɑ:rdiɯini

ブ ソイズデリン ヘル ビーリンネ ハイス ハルプラン バールドゥグヌ

この 単語の それぞれ ひとつに どんな 文字の あることを

aýdyñ.

aydıñ.

'ʔɑjdiŋ]

アイドゥン

言いなさい

Dördünji の語幹は dōrt ドョールト「4」です。短母音の単音節語幹のぞいて、語幹末の -p, -t, -ç, -k はあとに母音が来ると、それぞれの有声音 -b-, -d-, -j-, -g- に変化します。たとえば、kitāp→kitāby「本を」、āt→ādy「名前を」、agaç→agajy「木を」、bālyk→bālygy「魚を」。

gowy gör- は文字どおりには「よく見る」ですが、「好む、気に入る」という意味になります。

arassa は「清らかな、きれいな」という形容詞ですが、副詞としても使えます。

bilim ber- は特定のでない知識ですから格語尾はありません。

siz-iñ は siz の所属格形です。ここで人称代名詞の変化形を出しておきます。

格 \ 人称 数	第 1 人称		第 2 人称	
	単数	複数	単数	複数 (単数の敬語としても)
所属格 (の)	Men	biz	sen	siz
方向格 (へ)	Meniñ	biziñ	seniñ	siziñ
対象格 (を)	Maña	bize	saña	size
位置格 (に)	Meni	bizi	seni	sizi
位置格 (に)	Mende	bizde	sende	sizde
起点格 (から)	Menden	bizden	senden	sizden

dōst-uñyz-dyr と分けられ、母音調和による形をとっています。

Bū は近くにあるものをさす指示代名詞「これ」ですが、すぐ前に言ったこと、書いたことをさすことができ、ここではすぐ前の 4 つの文の単語をさしています。būlar「これら」のように複数形をもっていますが、

指示形容詞として名詞の修飾語となるときは *būlar* ではなく、このように名詞が複数形であっても、*bu* を使います¹。また、このとき *bū* の所属格形である *munuñ* 「これの」も使いません。

【いろいろな単語 1】

< 曜日名 >

月曜日	<i>duşenbe</i>	<i>dūşenbe</i>
火曜日	<i>sişenbe</i>	<i>sişenbe</i>
水曜日	<i>çarşenbe</i>	<i>çarşenbe</i>
木曜日	<i>penşenbe</i>	<i>penşenbe</i>
金曜日	<i>anna</i>	<i>anna</i>
土曜日	<i>şenbe</i>	<i>şenbe</i>
日曜日	<i>ýekşenbe</i>	<i>yekşenbe</i>

(ニヤゾフ元大統領が 2002 年に定めた曜日名²)

月曜日	<i>Başgün</i>	<i>Başgün</i>
火曜日	<i>Ýaşgün</i>	<i>Yāşgün</i>
水曜日	<i>Hoşgün</i>	<i>Hoşgün</i>
木曜日	<i>Sogapgün</i>	<i>Sogapgün</i>
金曜日	<i>Annagün</i>	<i>Annagün</i>
土曜日	<i>Ruhgün</i>	<i>Ruhgün</i>
日曜日	<i>Dynçgün</i>	<i>Dınçgün</i>

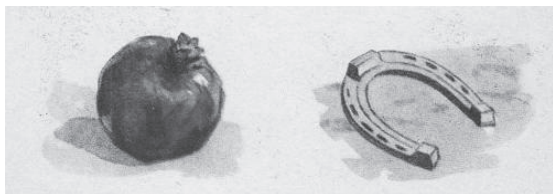
¹ 本書では指示代名詞を *bū*、指示形容詞を *bu* と表記しています。

² 不評のため 2008 年 4 月に廃止になり、現在は元の曜日名のみ用いられています。

< 練習 5 : 本文 >

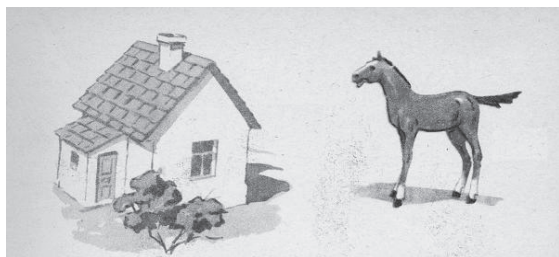
5-nji gönükme

Suratlara seredip, olaryň, atlaryny
epderiňize ýazyň.



Nar.

Nal.



Öý.

Taý.

Ýazan sözleriňizde nähili üýtgeşik
harplaryň bardygyny aýdyp beriň.

<練習 5 : 解説>

5-nji gönükme. Suratlara seredip, olaryň, atlaryny
 Bāşinci gönükme. Sūratlara seredip, olaryň ātlarını
 [bæ:ʃɪndʒi gø:nʏkmø θu:rɑtlɑrɑ θerɛdɪp olɑrɪŋ ɑ:tlɑrɪnɪ]

ベーシンジ ギョーヌクモ スーラットララ セレディップ オロルン アートルルヌ

第5の 練習 絵に 注目して それらの 名前を

depderiňize ýazyň.

depderiňize yazıň.

depteriňiðe [jɑðəŋ]

デプテリンギゼ ヤズン

ノートに 書きなさい

Nar. Nal.

Nār. Nāl.

[nɑ:r nɑ:l

ナール ナール

ザクロ 蹄鉄

Öý. Taý.

Öy. Tay.

ʔøj t'ʌj]

オイ タイ

家 子馬

Ýazan sözleriňizde nāhili üýtgeşik harplaryň bardyňyny

Yazan sözleriňizde nāhili üytgeşik harplaryň bārdıgını

[jɑðəŋ θø:ðdərɪŋiðdə 'nɛ:ɑxlɪ ʏjtɟɪʃk χɑrplərɪŋ bʷɑ:rɔdɪɟɪnɪ]

ヤザン ソーズデルンギズデ ネーアフリ ウイトゲシク ハルプラルン バールドゥグヌ

書いた 単語に どんな 異なる 文字の あることを

aydyň beriň.

aydyp beriň.

'ajdyp 'berinj]

アイドアップ ベリン

言って ください

Bāş-inji と分けられます。

Sūrat-lar-a の最後の-a は方向格（へ、に）の語尾です。方向格は動作の動的な変化を示すのに対し、位置格は動作の静的な存在を示すことで区別されます。日本語では、ともに「に」で訳されることがあります。たとえば、Maňa beriň. 「私にください」と Mende sōrag bār. 「私には質問がある」。

scred-ip の語幹は seret- です。

o-lar-yň と分け、指示代名詞・複数語尾・所属格語尾からなっています。この単数形は ol で、bū と同様に指示形容詞「その、あの」としても使うことができますが、複数形 olar は修飾語にはなりません。bū と ol の格変化は次のとおりです：

	bū	bular	ol	olar
所属格	munuň	bularyň	onuň	olaryň
方向格	muňa	bulara	oňa	olara
対象格	muny	bulary	ony	olary
位置格	munda	bularda	onda	olarda
起点格	mundan	bulardan	ondan	olardan

まえに人称代名詞を学びましたが、第3人称はありません。指示代名詞 ol を人に使えば「かれ、かの女」の意味になりますが、これは転用であ

って、トルコ諸語には第3人称という形態的カテゴリーはありません。

Ol bu ýer-de ýäşa-yär.

この所に住んでいる

という文で ol は男でも女でも動物でもよく、それは前後関係によってきまってきます。

āt-lar-y-n-y と分析し、名詞・複数語尾・つなぎ子音・対象格語尾の順になっています。

depder-iñiz-e も {ノート・君たちの・へ} の順に規則的に接尾しています。

【いろいろな単語2】

<州・都市名>

Ahal	Ahal	アハル州；アハル市（アハル州州都）
Balkan	Balkan	バルカン州
Daşoguz	Daşoguz	ダシヨグズ州；ダシヨグズ市（ダシヨグズ州州都）
Lebap	Lebap	レバプ州
Mary	Mari	マル州；マル市（マル州州都）
Balkanabat	Balkanabat	バルカナバト市（バルカン州州都）
Nebit Dag	Nebit Dag	ネビットダグ市（バルカナバト市の旧称）
Türkmenabat	Türkmenabat	テュルクメナバト市（レバプ州州都）
Çarjöv	Çarcöv	チャルジョウ市（テュルクメナバト市の旧称）

< 練習 6 : 本文 >

6-njy gönükme

Sözleri okaň we göçüriň.

Mekdep, pagta, parta, top, çagalar.

Her sözde näçe harp bardygyny sözleriň
üstünden sifr bilen ýazyň.

6 5

Husga. Mekdep Pagta

<練習 6 : 解説>

6-njy gönükme. Sözleri okañ we göçürin̄.

Altıncı gönükme. Sözleri okañ ve göçürin̄.

[ˈɑ:ɦindzi gø:nɣkmø θøjðdərı oqañ w gøˈtʃɣrɣŋ]

アールトゥンジ ギョーヌクモ ソイズデリ オカン ウ ギョチュルン

第 6 の 練習 単語を 読みなさい そして うつしなさい

Mekdep, pagta parta, top, çagalar.

Mekdep, pagta, parta, top, çāgalar.

[ˈmextɛp ˈpa:xtə ˈpa:rtə top tʃɑ:ɣəlar]

メクテップ パークタ パールタ トップ チャーガラル

学校 綿 机 ボール こどもたち

Her sözde nāçe harp bardygyny sözleriñ üstünden

Her sözde nāçe harp bārdıgını sözleriñ üstünden

[xer θø:ðde ˈnæ:tʃe ɣarp bɑ:rdıˈni θøjðdərıñ ʉθtʉndn]

ヘル ソーズデ ネーチェ ハルプ バールドウーヌ ソイズデリン ウストウンドウン

それぞれの 単語に いくつの 文字 があることを 単語の 上に

sifr bilen ýazyñ..

tsifr bilen yazıñ.

ʃi:βr bilen ˈjaðıñ]

シーブル ビレン ヤズン

数字 で 書きなさい

6 5

Nusga. Mekdep, pagta.

Nusga altı bāş

[nuθxə ʔɑɦti bje:ʃ]

ヌスホ アルトウ ビューシ

例 6 5

※ここでは、数字を読みあげています。

単語は mekdep 「学校」、pagta 「綿」

です。

Alty-njy と分けられます。

pagta は綿の木、綿花ともにさします。

parta は1人用の椅子つき机です。

Her sözde は sözlerde とならず単数あつかいです。なお2以上の数詞(名詞の下位区分としての)が修飾語となる名詞も複数形にしませんので注意しておきます。たとえば「3人のこども」は üç çāga であって çāgalar とはしません。したがって名詞語幹は数のカテゴリーとしては中立で、かならずしも単数ではありません。複数形と呼ぶものは「ばらつき」を示し「いろいろなもの、その他おおぜい、大体、同種の集まり」などをあらわすのに使われます。suwlar 「いろいろな水、あちこちの水」、sāgat ōnlarda 「10(ōn)時(sāgat)ごろに」、Muradowlar 「ムラドフとその家族」、gīceler 「夜ごと」など。

üst-ü-n-den の -den は起点格の語尾です。起点格は動作の出発点を示すのを基本として、その用法は広い。üst 「上」を使ったつぎの用例を参考にしてください。

derýā-nyň üstünden geç-yān köpri

川 の 上 に 渡っている 橋

kostýum-yň üstünden palto geý-

コスチューム の 上から オーバーを 着る

bilen について。他の語とともに使われ、アクセントがない(弱い)単語を付属語といいます。名詞や動詞のように独立しているものは自立語と呼ばれます。bilen は「と、ともに、で、をもって」などと訳すことができ、名詞のあとに用いるところから後置詞とも呼ばれます。

Jemal bilen men mekdepde

ジェマル と 私は 学校で

el bilen ek-

手 で 種をまく

sābyn bilen ýuwun-

石けん で 洗う

トルクメン語はニホン語とおなじく、世界に種類の多い動詞おわりの後置詞言語です。

【いろいろな表現 1】

<あいさつなど>

Salam.

Salām.

おはよう。こんにちは。こんばんは。(いつでも使える)

Gijāñiz rahat bolsun.

Gijāñiz rāhat bolsun.

おやすみなさい。

Gowumy ýagdaýlaryňyz? /Nähili?

Govumı yagdaylariňız? / Nähili?

お元気ですか。

Gowy. / Gowy däl.

Govı. / Govı däl.

元気です。／元気ではない。

Sag bol. / Sag boluň.

Sag bol. / Sag boluň.

さようなら。ありがとう。

Bagyşlaň.

Bagışlaň.

ごめんなさい。すみません。

< 練習 7 : 本文 >

7-nji gönükme

Okaň. Her iki sözdäki üýtgeşik harplary aýdyň.

Bal — bil

towuk — sowuk

gül — gün

çörek — börek

ak — ek

goýun — çoýun

men — sen

döle — göle

<練習 7 : 解説>

7-nji gönükme. Okañ. Her iki sözdäki üytgeşik

Yedinci gönükme. Okañ. Her iki sözdäki üytgeşik

[ˈjɛdɪndʒɪ gø:nɯkmø ʔoqɑŋ xɛr iqi θø:ðdɛæk ɣjtgeʃk

イエディンジ ギョーヌクモ オカン ヘル イキ ソーズデアック ユイトゲシク

第7の 練習 読みなさい それぞれ 2つの 単語の ちがう

harplary aýdyň.

harpları aydın.

xarplari ajdın]

ハルブラル アイドウン

文字を 言いなさい

Bal — bil towuk — sowuk

bal bil towuk sovuk

[baɫ bɪɫ] towuq θowuq

バル ビリ トウック ソウック

蜜 知れ 雌鶏 寒い

gül — gün çörek — börek

gül gün çörek börek

gul gun tʃø:røk bø:røk]

ギュル ギュン チョロック ボロック

花 太陽 パン 餃子

ak — ek goýun — çoýun

āk ek goyun çoyun

[ʔɑ:q εk gojun tʃo:jun

アーク エック ゴユン チョユン

白い 種まけ 羊 鑄鉄

men — sen	döle — göle
men sen	döle göle
men tθen	døle gøle]
メン セン	ドロ ゴロ
私 君	牛小屋 子牛

Ýedi-nji と分けられます。

söz-däki の-däki は位置格の語尾に形容詞化の-ki がついて「…にあるところの」。

sowuk 「寒い」と「冷たい」の区別はありません。

men — sen のところで sen をツェンのように発音していますが、これは men の最後の歯うら音が[t]のような「わたり音」を生じさせたものです。

【いろいろな表現 2】

<あいさつなど>

Ertiriñiz haýyrly bolsun!

おはようございます。

Ertüriniz hayırlı bolsun!

Gijäñiz rahat bolsun!

おやすみなさい。

Gijäñiz rāhat bolsun.

Taňşanymyza örän şat.

どうぞよろしくお願ひします。

Taňşanımyza örän şāt.

Menem şat.

こちらこそ、どうぞよろしく。

Menem şāt.

Hawa. / Ýok.

はい。／いいえ。

Hava. / Yök.

< 練習 8 : 本文 >

8-nji gönükme

Suratyň aşagyndaky sözlemleri okaň.



Gyşyna howa sowáýar. Gar ýagýar.
Çagalar boş wagtlary gar togalap
oýnaýarlar. Gardan adam ýasaýarlar. Gurban
bilen Hemra gar zyňşýarlar. Çagalar
garyň üstünde oýnaýarlar. Üç we dört
harpdan düzülen sözleri göçürip alyň.

<練習 8 : 解説>

8-nji gönükme. Suratıñ aşagyndaky sözlemleri okañ.

Sekizinci gönükme. Sūratıñ aşāğındakı sözlemleri okañ.

[ʼθekendʒı gø:nıkmø θu:rtıñ ʼʔɑʃɑ:nnaki θøjðlemleri ʼoqɑŋ]

セケンジ ギョーヌクモ スールトゥン アシャーンナキ ソイズレムレリ オカン

第 8 の 練習 絵の 下の 文を 読みなさい

Gyşyna howa sowaȳar. Gar ýagýar. Çagalar

Gışına hovā sovayār. Gār yagyāp. Çāgalar

[Gıʃnə xo:wa θowəjɑ:r gɑ:r jɑgɑr tʃɑ:gɑlɑr

グシュナ ホーワ ソウォヤール ガール ヤグアル チャーガラル

冬には 天気は 寒くなる 雪が ふっている こどもたちが

boş wagtлары gar togalap oýnaýarlar. Gardan adam

boş waglary gār togalap oynayārlar. Gārdan ādam

boʃ wɑgtlɑr gɑ:r toɡɑlɑp ojnəjɑrlɑr gɑ:rdən ɑ:dɑm

ボシ ワグトラル ガール トガラップ オイナヤルラル ガールドン アーダム

あき 時間に 雪を ころがして あそんでいる 雪から 人を

ýasaýarlar. Gurban bilen Hemra gar zyňyşýarlar.

yasayārlar. Gurban bilen Hemra gār zıñışyārlar.

jɑθıjɑ:rlər gʊrwən blen çımra gɑ:r ðıñjɑ:rlər

ヤスヤールラル グルワン ブレン ヒムラ ガール ズンシャールラル

つくっている グルバン(男女名) と ヘムラ(男名)は 雪を なげあっている

Çagalar garyñ üstünde oýnaýarlar.

Çāgalar gārıñ üstünde oynayārlar.

tʃɑ:gɑlɑr gɑ:rıñ ʏθıyndə ʼojnəjɑ:rlɑr]

チャーガラル ガールン ユストウンデ オイネヤールラル

こどもたちが 雪の 上で あそんでいる

Üç we dört harpdan düzülen sözleri göçürip alyň.

Üç ve dört harpdan düzülen sözleri göçürip alň.

[ytʃ wə dɔ:rt xarptən dyðylən θɔjðdəri gətʃyrıp 'ʔalɨŋ]

ユチ ウェ ドョールト ハルプタン デュズレン ソイズデリ ギョチュリップ アルン

3 と 4 文字で つづられた 単語を うつし とりなさい

Sekiz-inji と分けられます。

Gyş-yna と分け、-yna は副詞をつくる接尾辞で、toms-una「夏 (tomus) に」、agşam-yna「夕方に」などとなります。母音おわりの語幹では gıçe-sine「夜に」の形をとります。

sowa-ýār, ýag-ýār で動詞の語幹は sowa-「ひえる」、ýag-「雨などがふる」です。-ýān は未完了の終止・連体形活用語尾。

wagt-lar-y の-y も副詞をつくる接尾辞です。

togala-p 連用形; oyna-ýār-lar の-lar(～-ler)は活用形につく複数語尾で、行われた動作が多様であることを示します。

「雪だるま」は gār ādam といいます。

Gurban bilen Hemra 2人が対等でそれぞれのしかたで雪をなげているのですが、さきに出した用例 Jemal bilen men mekdepde okaýār-yn.では、最後の-yn が単数第1人称「私」を示しているところから、ジェマルと私は対等ではなく、「ジェマルといっしょに」が従属的な意味で使われているのでしよう。

zyň-yş-ýār-lar の動詞語幹は zyň-「投げる」ですが、-yş (母音おわりの語幹には-ş だけ) という接尾辞がつくと、「相互に、協同して」という意味をくわえることができます。「…しあう」という第2次語幹をつくります。すなわち、gör-「見る」→görüş-「見あう、会う」、ur-「打つ」→uruş-「打ちあう、戦う」、söy-「愛する」→söýüş-「愛しあう」など。

düzülen の動詞語幹は düz-で、-ül は受け身の接尾辞です。この接尾辞は語幹末が l をのぞく子音のとき、-il, -yl, -ül, -ul のうちのひとつを母音調和の法則によって接尾させます。たとえば diý-「言う」→diýil-「言われる」、ýaz-「書く」→ýazyl-「書かれる」、söý-「愛する」→söýül-「愛される」、ur-「打つ」→urul-「打たれる」など。

göçür-ip al-ynň の al-は「取る、買う、受ける」を意味しますが、助動詞としては動作が動作主によって完成されることを示します。ýaz-yp al-「書きとる、書きとめる」、tap-yp al-「さがし出す」、gaýtar-yp al-「戻して取る→取りもどす」など。

<練習 9 : 本文>

9-njy gönükme

Özüňizden tapyp, dört harpdan düzülen
alty sany sözi depderiňize ýazyň.

<練習 9 : 解説>

9-njy	gönükme.	Özüňizden	tapyp,	dört	harpdan
Dokuzinci	gönükme.	Özüňizden	tapip,	dört	harpdan
[ˈdoqɪndʒɪ	gø:nɪkmo	ø:ðɪndən	tapip	døɪrt	xarptən
ドクンジ	ギョーヌクモ	オーズィンデン	タップ	ドョールト	ハルプタン
第 9 の	練習	自分で	さがして	4	文字から

düzülen alty sany sözi depderiñize ýazyň.
düzülen altı sānı sözi depderiñize yazıñ.
dyðylen alti θa:n θøjðı deþteriñiðø 'jaðiñ]

デュズレン アルトゥ サーン ソイズィ デプテリンギゼ ヤズン

つづられた 6 個の 単語を ノートに 書きなさい

Öz-üñiz-den は öz 「自分、自身」と複数第 2 人称の語尾と起点格の語尾からなっていますが、単数第 2 人称 öz-üñ-den のように読まれています。「君たち自身によって」の意味です。

alty sān-y söz の sān は「数」を意味する名詞です。さきに数詞は名詞の下位区分であると説明しておきましたが、この sān という語は数詞的な名詞あるいは数量詞の名詞とでも言えるような使いかたをします。

「6 個の単語」は単に alty söz (sözler ではない) でもよいのですが、alty というその数 sān-y としたうえで söz を修飾しています。2 つ名詞が並ぶだけでは修飾・被修飾の関係をつくらないのが普通です。たとえば、okuw 「学習」と sözlük 「辞典」は sözlügi という限定語尾をつけた形で名詞句として成立するのです。しかし、直接修飾できるものがあり、それは代名詞と数詞そして数量を示す名詞です。たとえば、bir stakan çäý 「1 ぱいの茶 (stakan 「コップ」←ロシア語)」、segsen kilometr tızlik 「80 キロメートルの速度」、bir topbak kāgyz 「ひと山の紙」、üç baş düýe 「3 頭のラクダ」など。

<練習 10 : 本文>

§ 2. Çekimli we çekimsiz sesler.

Sesler iki topara bölünýärler:

1. Çekimliler.
2. Çekimsizler

10-njy gönükme.

Şygry okaň. İçinde «i, ö, ü, ä, ýe(e) ³»

sesleri bolan sözleri aýdyp beriň.

Ýaş leninçi.

Gözeldir ter bagymyz,

³ キリル文字版による原文では、キリル文字表記の母音の説明で «и, о, у, э, е(э)» と示されています。

Ýapragy zer bagymyz.

Şol bagyň al güli men,

Şol bagyň bilbili men.

Güller açýar Watanyň,

Şöhle saçýar Watanyň.

Her gününde bir täze,

Ýeňiş guçýar Watanyň.

Watanymda şadym bar,

Ýaş leninçi adym bar.

Ý. Ataýew.

<練習 10 : 解説 1>

§ 2. Çekimli ve çekimsiz sesler.

İkinci paragraf. Çekimli ve çekimsiz sesler.

[ʔıkindzi pa:ragraf ʃe:kemli w tʃe:kemθıð θeθter]

イキンジ パーラグラフ シェークムリ ウ チェークムセズ セステル

第 2 節 c 母音 と 子音 (という)音

Sesler iki topara bölünýärler:

Sesler iki topara bölünýärler:

[θe·θter ikj toprə bøjlyna·rler]

セステル イキ トブラ ボイリュニャールレル

音は 2 群に 分けられる

1. Çekimliler. 2. Çekimsizler

Birinci. Çekimliler. İkinci. Çekimsizker.

[brındzi tʃe:kmlılər ıkindzi tʃe:kmθıðter]

ブリンジ チェークムリレル イキンジ チェークムスイズテル

第 1 は 母音 第 2 は 子音

10-njy gönükme. Şygry okaň. İçinde ‹‹i, ö, ü, ä, ýe(e)››

Önunci gönükme. Şıgrı okaň. İçinde ‹‹i, ö, ü, ä, ye(e)››

[ʔo:ndzi gø:nıykmø ʃıyri oqaŋ itʃinne i: yø: y: ε: jε·

オーンジ ギョーヌクモ シュグル オカン イチンネ イー ヨー ユー エー イェー

第 10 の 練習 詩を 読みなさい そのなかに

sesleri bolan sözleri aýdyp beriň.

sesleri bolan sözleri aýdyp beriň.

θeθteri blən θøjðderi aýdyp 'berıŋ]

セステリ ブラン ソイズデリ アイドゥップ ベリン

音 がある 単語を 言って ください

topar-a と分け、方向格になっています。

böl-ün-ýär-ler で語幹「分ける」が böi-、つづく -ün は l でおわる語幹につく受け身の接尾辞です。

Çekim-li, çekim-siz は音声学の用語としての母音と子音です。p.44 でシェケムリのように発音しているのは、すぐまえの f の影響で ç が摩擦音化したものです。-li, -siz という接尾辞は「有・無」をあらわす形容詞化の接尾辞で大へん便利に使われます。çekim は「重量」を意味します。akyl 「知恵」→akyly 「知恵のある」、akylsyz 「知恵のない」、suw 「水」→suwly 「水のある、水っぽい」、suwsuz 「水のない」。

Şygr-y 「詩を」の名詞語幹は şygyr で、第 2 音節の r が落ちています。これはつぎの法則によります。C を子音、V を母音として (C₁)V₁C₂V₂C₃ という音節構造の語で C₂ が有声で V₂ が狭い短母音 (i, ü, y, u) で C₃ が r, l, n, ş, s, z のうちのひとつであるとき、あとに母音ではじまる接辞がつくと、V₂ が落ちてしまいます。たとえば、demir 「鉄」→demr-i 「鉄を、その鉄」、ogul 「息子」→ogl-uň 「君の息子」、burun 「鼻」→burn-um 「私の鼻」、köwüş 「靴」→köwüş-üňiz 「君たち (あなた) の靴」、göwüs 「胸」→göws-i 「胸を、その胸」、agyz 「口」→agz-y 「口を、その口」。なお一般に「詩を読む (書く)」は şygyr oka-(ýaz-) ですが、ここの詩は具体的に後述の詩をさしていますから対象格にしてあります。

Iç-i-n-de と分けられます。

《i, …》 ses-ler-i の i は限定語尾で、「《i, …》 という音」のように結びつきます。B harp-y 「B という文字」なども同様の名詞句です。

<練習 10 : 解説 2>

Ýaş leninçi.

Yāş leninçi.

[jɑ:ʃ lɛ:nintʃɪ]

ヤーシ レーニンチ

若い レーニン主義者

Gözeldir ter bagymyz,

Gözeldir ter bāgımız,

[gøðeldir tɛr bɑ:ɣimið]

ギョゼルデル テル バーグムス

きれいだな みずみずしい われらの園

Ýapragy zer bagymyz.

Yapragı zer bāgımız.

[jɑːprɑɣi ðɛr bɑ:ɣimið]

ヤブラグ ゼル バーグムズ

その葉は 金色の われらの園

Şol bagyň al güli men,

Şol bāgıj āl güli men,

[ʃol bɑ:ɣiŋ ɑ:l ɣyli mɛn]

ショル バーグン アール ギュリ メン

その 園の まっかな 花 私

Şol bagyň bilbili men.

Şol bāgıj bilbili men.

[ʃol bɑ:ɣiŋ bilˈbili mɛn]

ショル バーグン ビリビリ メン

その 園の ナイチンゲール 私

Güller açýar Watanyň,
Güller açýār Vatanym,
[gʏller atʃja:r watanim]

ギュルレル アチャール ワタヌム

花 ひらく わが祖国

Şöhle saçýar Watanyň.
Şöhle saçýār Vatanym.
[ʃøxlə ʃatʃja:r watanim]

シヨホレ サチャール ワタヌム

光 はなつ わが祖国

Her gününde bir täze,
Her gününde bir täre,
[xer gʏnnɛ bir tæ:ðɛ]

ヘル ギュンデ ブル テーゼ

毎 日 ひとつ 新しい

Ýeňiş guçýar Watanyň.
Yeňiş guçýār Vatanym.
[jəniʃ gutʃja:r watanim]

イェンギシ グチャール ワタヌム

成果 むすぶ わが祖国

Watanymda şadym bar,
Vatanymda şādım bār,
[watanimɔə ʃa:dim ba:r]

ワタヌムダ シャードウム バール

わが祖国に わが幸 あり

Ýaş leninçi adym bar.
 Yāş leninçi ādım bār.
 [ja:ʃ lʲɛ:nintʃ a:dim m^wa:r]

ヤーシ レーニンチ アードウム マール

若い レーニン主義者 わが名 あり

Ý. Ataýew.

Yā Atāyev.

[ja: ata:əf]

ヤー アターエフ

lenin-çi の-çi は人をあらわす接尾辞で、よく使われます。たとえば、bālyk 「魚」→bālykçy 「魚屋、漁師」、İş 「労働、しごと」→İşçi 「労働者」、okuw 「学習」→okuwçy 「学生」。

Gözel-dir の-dir は「である」を意味する付属語ですが、正書法では前の語につづけて書かれます。

bāg-ymyz の-ymyz は第 1 人称複数の人称語尾です。狭母音 4 つ（これを以後 ° であらわすことにしますので注意してください）による交替形をもっています。母音おわりの語幹では人称語尾と融合して長く発音されます。したがって、つぎのように規則化することができます。

	単数	複数
第 1 人称	- ^o m	- ^o miz ~ - ^o myz
第 2 人称	- ^o ň	- ^o ňiz ~ - ^o ňyz

ata 「父」→atā-m 「私の父」、ene 「母」→enē-ň 「君の母」。第 3 の練習のところで出した、母音調和の法則をしっかりと復習してください。「ノート」の人称変化は、つぎのようになります：

depderim	depderimiz
depderiň	depderiňiz

göz 「目」 だったら、つぎのように :

gözüm	gözümüz
gözüň	gözüňiz

Ýaprag-y の語幹は ýaprak です。この法則は第4の練習のところで説明済みです。

Şol 指示代名詞 *bū* と *ol* については、まえに出てきました。*bū* に対して *şū*、*ol* に対して *şol* があります。*şū* と *şol* は「正にこれ (この)、ほらこれ (この) ; 正にそれ (その)、ほらそれ (その)」のような強調的な意味をもっています。格変化のしかたは *bū*、*ol* になります。*şol* の複数形は *şolar* ですが、ほかの3つと同じく指示形容詞にはなりません。

bāg-yň … *gül-i*、*bāg-yň bilbil-i* のように所属格語尾のついた形と限定語尾のついた形が、呼応した名詞句をつくっていることに注意してください。前者のように、そのあいだに別の語がはいることもよくあります。所属格の語尾は、それが接尾した名詞語幹を限定されたものとして、話題になっているそのものを指示するはたらきがあります。たとえば *çāgalar* 「子どもたち」と *kitāp* 「本」を関係づけるには2つの方法があり、ひとつは *çāgalaryň kitāby* で「ある特定の子どもたちに属する本」を意味し、もうひとつは *çāgalar kitāby* で「子ども向けの本＝児童書」を意味します。後者は複合的な新しい語彙をつくっている点で、より固い結びつきをしています。ここで格語尾を一覧表にしておきます :

所属格	-(n) ^o ñ
方向格	-e~-a (-ã~-ā)
対象格	-(n)i~--(n)y
位置格	-de~-da
起点格	-den~-dan

(n)は母音おわりの語幹に出るものです。方向格の形には注意が必要です。子音おわりの語幹では問題ありませんが、aでおわる語幹のときは正書法では形を変えず、長母音に発音するのです：ata「父」→atā「父へ」。iとeでおわる語幹のときは、これらをāにかえる：gije「夜」→gijā「夜へ」。yでおわるときはāにかえる：guzy「子羊」→guzā「子羊へ」。

Watan-ymの語幹はwatanです。

šād-ymの語幹はšāt「幸せ(な)、楽しさ、楽しい」です。

ād-ymの語幹もātです。

【いろいろな単語3】

<山・海・川など>

Köpet dag	Köpet dag	コペトダグ山
Kaspi Deñzi	Kaspi Deñzi	カスピ海
Garabogazköl	Garabogazköl	カラボガズ湾
Amyderýa	Amıderya	アムデリヤ川
Etrek	Etrek	エトレキ地方(バルカン州);エトレキ川
Tejen	Tecen	テジェン地方/市(アハル州);テジェン川
Garagum	Garagum	ガラグム砂漠
Gyzylgum	Gızılğum	クズルクム(キジルクム)砂漠
Garagum Kanal	Garagum Kanal	ガラグム運河

< 練習 11 : 本文 >

11-nji gönükme

Suratyň aşagyndaky sözlemleri göçüriň.



Gyşyna günler gysgalýar. Howa sowuk
bolýar. Suwlar doňýar. Çagalar buzda
taýyp oýnaýarlar.

<練習 11 : 解説>

11-nji gönükme. Suratıñ aşığındaky sözlemleri

Ön birinci gönükme. Sūratıñ aşığındakı sözlemleri

[ʊmbi:rindzı gø:nʏkmø θu:rətɨ 'ɑʃɑ:nnəkı θøjðlɨmləri

オーンビリンジ ギョーヌクモ スーラトゥン アジャーンナキ ソイズレムレリ

第 11 の 練習 絵の 下にある 文を

göçürin.

göçürin.

gøtʃʏrɨŋ]

ギョチュルン

うつしなさい

Gyšyna günler gysgalýar. Howa sowuk bolýar.

Gışına günler gısgalyār. Hovā sovuk bolyār.

[gıʃnə gʏnner ɡıjθqalja:r xo·wa θowuq bolja:r]

グシナ ギュンネル グイスカルヤール ホーワ ソウック ボルヤール

冬は 日ごと 短くなる 天気が 寒く なる

Suwlar doňýar. Çagalar buzda taýyp oýnaýarlar.

Suwlar doňyār. Çāgalar būzda tāyip oynayārlar.

[θuwlər doŋja:r tʃɑ:galar bu:ðdø ta:jip 'ojnaja:rlar]

スウラル ドンヤール チャーガラル ブーズダ ターユップ オイナヤールラル

水が こおっている こどもたちが 氷で すべって あそんでいる

Sūrat-yñ は、p.13 で説明したように「つぎの絵の」を内容としています。

gýsga-l-yār と分析し、-l~-el~-al は形容詞 gýsga を自動詞化する接尾辞：gara「黒い」→garal-「黒くなる」、ýök「ない」→ýōgal-「なくなる、死ぬ」、āz「少ない」→āzal-「少なくなる」、dār「狭い」→dāral-「狭くなる」など。

tāy-yp と分けられます。

<練習 12 : 本文>

12-nji gönükme

Okaň we içinde ýe, ýo, ýu, ýa⁴
harplary bolan sözleri göçüriň.

Eýer, gün, ýelim, ýolka, durna, köwüş,
demir, orak, ýorgan, ýagty, düýe, çopan,
ýumuş, ýuka, erik, sagat, ýol, ýalyn,
bugdaý.

⁴ キリル文字版による原文では、キリル文字表記の母音の説明で е, ё, ю, я と示されています。

<練習 12 : 解説>

12-nji gönükme. Okañ we içinde ye, ýo, ýu, ýa

Ön ikinci gönükme. Okañ ve içinde ye(e), yo, yu, ya

[onkindzi gönükme ʔoqaŋ wə itʃinne je: jo: ju: ja:

オンキンジ ギョーヌクモ オカン ウェ イチンネ イェー ヨー ユー ヤー

第 12 の 練習 読みなさい そして そのなかに

harplary bolan sözleri göçürň.

harpları bolan sözleri göçürň.

xarpləri bolan θəjðdəri gøtʃrɤŋ]

ハルブラル ボラン ソイズデリ ギョチリュン

文字 がある 単語を うつしなさい

Eýer, gün, ýelim, ýolka, durna, köwüş, demir, orak,

Eyer, gün, yelim, yolka, durna, kövüş demir orak,

[ejer gynʲ jelim jo:lka ðurnə kəwɯʃ dʲemir orək

エイエル ギュン イェリム ヨールカ ドウルナ キョウウシ デミル オロック

鞍 太陽 糊 モミ 鶴 靴 鉄 鎌

ýorgan, ýagty, düýe, çopan, ýumuş, ýuka, erik, sagat, ýol,

yorgan, yāgtı düye çopan yumuş yūka erik sāgat yōl

jorgən ja:ytij dɯɛ tʃopən jumɯʃ ju:qə erik θa:ɣat jo:l

ヨルゴン ヤーグトウイ デュエ チョボン ユムシ ユーコ エリック サーガト ヨール

ふとん 光 ラクダ 羊飼 い 頼み 薄い アンズ 時計 道

ýalyn, bugdaý.

yalın bugday

jalın buɣdaj]

ヤルン ブグドイ

炎 小麦

【いろいろな表現 3】

<時の表現>

irden	İRden	朝	öyle	öyle	昼
ağşam	ağşam	夕方	gije	gİce	夜、晩
şu(bu) gün	şu(bu)gün	今日	düýn	dŪn	昨日
ertir	ertİR	明日			
bu hepde		bu hepde		今週	
geçen (öňki) hepde		geçen(öňki) hepde		先週	
geljek hepde		gelcek hepde		来週	
bu aý		bu ay		今月	
geçen (öňki) aý		geçen(öňki) ay		先月	
Geľjek aý		gelcek ay		来月	
bu ýyl		bu yıl		今年	
geçen (öňki) ýyl		geçen(öňki) yıl		昨年、去年	
geljek ýyl		gelcek yıl		来年	

<練習 13 : 本文>

13-nji gönükme

Aşakdakylary okaň. Her sözdäki
çekimlisesleri aýdyň.

Biz birinji klasda okaýarys. Biziň
klasymyz ýagty. Biz klasymyzy arassa
saklaýarys. Partalary hapalamaýarys.
Arakesme wagtynda nobatçylyk edýäris.

<練習 13 : 解説>

13-nji gönükme. Aşakdakylary okaň. Her sözdäki
Ön üçünci gönükme. Aşakdakıları okaň. Her sözdäki
[oːntʃyndʒy gø:nʏkmø ʔaʃɑ:qtaːqləri oqaŋ xer θø:ðdæːki
オーンチュンジュ ギョーヌクモ アシャークタクラル オカン ヘル ソーズデーキ

第 13 の 練習 下のものを 読みなさい それぞれの 単語の

çekimli sesleri aýdyň.

çekimli sesleri aýdýň.

tʃe:kimnɪ θeθtɛrɪ aɟdɪŋ]

チャーケムニ セステリ アイドゥン

母 音を 言いなさい

Biz birinji klasda okaýarys. Biziň klasymyz ýagty.

Biz birinci klasda okayāris. Biziň klasımız yāgtı.

[bið birindʒı qla:θt oqajɑ:rθ biðiŋ qəla:ðmið ja:ɣtiŋ]

ビズ ブリンジ クラースト オカヤールス ビズィン カラーズムズ ヤーグトゥイ

私たちは 第1 学年で 勉強している 私たちの 教室は あかるい

Biz klasymyzy arassa saklaýarys. Partalary

Biz klasımızy arassa saklayāris. Pārtalary

bið qəla:ðmiði 'ʔaraθθə ðaklajɑ:rθ pa:rtələri

ビズ カラーズムズ アラッサ ザクラヤールス パールタラル

私たちは 教室を きれいに している 机を

hapalamayarys. Arakesme wagtynda nobatçylyk edýaris.

hapalamayāris. Ārakesme vagtında nōbatçılık edyāris.

xapəlamajɑ:rθ ʔɑ:rakeθmə wɑ:tində no:wətʃilk edijɑ:rθ]

ハパラムヤールス アーラケスメ ワードウンダ ノーウォチュルク エディヤールス

よごさない 休み 時間に 当番 している

Aşak-daky-lar-y は複数限定で名詞的にかえたものです。

klas は「学年、学級、教室」です。トルクメン語には二重子音ではじまる単語がありませんから、ロシア語からの借用語などでは母音が入ったりします。

sakla-は「保つ、守る」の意味です。

hapala-ma-ýār-ys となり、-ma(-me)は否定を示す接尾辞です。al→alma-「取らない」、gel→gelme-「来ない」という第2次語幹をつくります。なお hapa 「泥、汚れ」を-la で動詞化したものです。suw-la-「水をやる」など。

<練習 14 : 本文>

14-nji gönükme

Suratlaryň atlaryny kesme harplardan
düzüň.



<練習 14 : 解説>

14-nji gönükme. Suratlaryň atlaryny kesme

Ön dördünci gönükme. Sūratlaryň ātlarını kesme

[oːntø:rndʒy gø:nʏkmø θu:rʌtləŋ ɑ:tlarini kʲεθmε

オーントールンジュ ギョーヌクモ スーラットラルン アートルルヌ ケスメ

第 14 の 練習 絵の 名前を 切り

harplardan düzüň.

harplardan düzün.

xarplardən dʏðʏŋ]

ハルプラルダン デュズン

文字で つづりなさい

絵の答えは左から towşan (tovşan), horaz (horaz), geçi (geçi), ördek (ördek)。

<練習 15 : 本文>

15-nji gönükme.

Okaň we has gara ýazylan sözlerdäki çekimlileri aýdyp beriň.

Meniň adym Sadap. Kakamyň ady Myrat. Men birinji klasda okaýaryn. Ýoldaşymyň ady Baýram. Men mekdepde okamagy söýýärim.

<練習 15 : 解説>

15-nji gönükme. Okaň we has gara ýazylan
Ön başinci gönükme. Okaň ve hās gara yazılan
[omme:ʃndʒ gø:nʏkmø oqaŋ wə χa:θ ga:ra jaðiln

オンメーシンジ ギョースクモ オカン ウェ ハース ガーラ ヤズルン

第15の 練習 読みなさい そして 特に 黒く 書かれている

sözlerdäki çekimlileri aýdyp beriň.

sözlerdäki çekimlileri aýdyp beriň.

θøjðderdæ:kʲ tʃe:kımlılırı aýdyp beriň]

ソイズデルデーキ チェケムリレリ アイドゥブ ベリン

単語の 母音を 言って ください

Meniň adym Sadap. Kakamyň ady **Myrat**. Men

Meniň ädim Sādap. Kākamıň ādı Mirāt. Men

[meniň a:dim θa:dap qa:qamıň a:di mira:t men

メニン アードゥム サードゥブ カーカムン アードゥ ムラート メン

私の 名は サードゥブ 父の 名は ムラート 私は

birinji klasda **okayaryn**. Ýoldaşymyň ady **Baýram**.

birinci klasda okayārin. Yoldaşımın ādı Bayram.

brindzi kla:θt oqaja-rin joʻtdoʻsmıň a:di b^wajram]

プリンジ クラースト オカヤールン ヨルドシムン アードゥ バイラム

第1 学年で 勉強している 友だちの 名は バイラム

Men mekdepe okamagy **söýýärim**.

Men mekdepe okamagy söyyärim.

[men mekteptə oqoməyru θøjja:rın]

メン メクテプテ オコモグ ソイヤールン

私は 学校で 勉強することを 好む

Meniň ädym Sādap. この文には主部と述部をつなぐものがありませんが普通のことです。

Kāka-m-yň 「私の父の」。

oka-ýār-yn の-yn は単数第 1 人称を示します。複数第 1 人称の形は、すでに出てきましたので、まとめると：

	単数	複数
第 1 人称	-in~-yn	-is~-ys
第 2 人称	-siŋ~-syň	-siňiz~-syňyz

Ýol-daş-ym-yn 「私の友だち」で、-daş は「仲間」をつくる接尾辞で ýöl 「道」→ýoldaş 「道連れ」、ōba-daş 「同じ村の人」。

oka-mag-y の動詞語幹は oka-。-mak(-mek)は動作名詞をつくる接尾辞です。「学校で勉強する」のように動詞としてのほたらきをもち、同時に「愛する」の直接目的語にもなっています。-mak(-mek)の接尾した形は、普通の名詞と同じく人称語尾や格語尾をとることができます。Aşgabad-a oka-mag-a gel- 「アシガバトへ勉強しに来る」。

<第 16 の練習省略>

<練習 17 : 本文>

17-nji gönükme

Okaň we göçürin, çekimli harplaryň
aşagyny çyzyň.

Iki etažly owadan jaý. Bu biziň
mekdebimiz.

Ol obanyň ortasynda ýerleşýär. Biz
mekdebiň golaýynda ýaşáarys.



<練習 17 : 解説>

17-nji gönükme. Okañ we göçürin, çekimli
Ön yedinci gönükme. Okañ ve göçürin, çekimli
[onnədindzi gø:nəkm ʔoqaŋ w gøtʃrɪŋ tʃe:kimlɪ

オンネディンジ ギョーヌクモ オカン ウ ギョチリン チェーキムリ

第 17 の 練習 読みなさい そして うつしなさい 母音

harplaryň aşagyny çyzyň.

harplarıŋ aşāgını çıziŋ.

xarplarıŋ ʔaʃa:ən ʔjiðin]

ハルブラルン アシャーアン チュズン

字の 下を 線引きしなさい

İki etažly owadan jaý. Bu biziň mekdebimiz.

İki etajlı ovadan cāy. Bū biziŋ mekdebimiz.

[iki tɑ:ʒli o:don dʒɑ:j bu: biðin mekte:bimið

イキ タージルウ オードン ジャーイ ブー ビジン メクテービミズ

2 階だての 美しい 建物 これは 私たちの 学校

Ol obanyň ortasynda ýerleşýär. Biz mekdebiň

Ol obanıŋ ortasında yerleşyär. Biz mekdebiŋ

ol o:βanıŋ ʔortəθnne jerleşjær bið mektebŋ

オル オーバヌン オルタスンネ イェルレシエル ビズ メクテブン

それは 村の 中央に 位置している 私たちは 学校の

golaýynda ýaşaýarys.

golayında yāşayāris.

ʔgolajndə ja:ʃəjarθ]

ゴラインダ ヤーシャヤルス

近くに 住んでいる

etaž-ly はロシア語 etaž 「階」に-ly をつけた「階をもっている」。

ōba-nyň orta-sy-n-da と分けます。

ýer-leş-ýār の-leş(-laş)は名詞・形容詞を自動詞化する接尾辞です。uzak 「遠い」→uzaklaş- 「遠ざかる」、bulut 「雲」→bulutlaş- 「曇る」。

golaý-y-n-da と分けます。

ýāša-ýār-ys と分けます。

<第 18,19 の練習省略>

【いろいろな単語 4】

<大統領の名前、政党名>

Saparmyrat Ataýewiç Nyýazow

Saparmyrat Atayewiç Niyazov

サパルムラト・アタイェビチ・ニヤゾフ（トルクメニスタン初代大統領）

Gurbanguly Mälikgulyýewiç Berdimuhammedow

Gurbanguly Mälikgulyyewiç Berdimuhammedov

グルバングル・マリクグルイェビチ・ベルディムハメドフ（トルクメニスタン第2代大統領）

TDP TDP

Türkmenistanyň Demokratik Partiyasy

Türkmenistanıň Demokratik Partiyası

トルクメニスタン民主党

<練習 20 : 本文>

20-nji gönükme

Okañ we her sözdäki çekimlileri göçürin.

El bilen ekerler,

Dil ilen orarlar.

Hat

<練習 20 : 解説>

20-nji gönükme. Okañ we her sözdäki çekimlileri

Yigiriminci gönükme. Okañ ve her sözdäki çekimlileri

[ji:rmındzi gø:nøkmø oqañ w xer θø:ðdæk tʃɛ:kımlıləri

ユールミンジ ギョーヌクモ オカン ウ ヘル ソーズデキ チェーキムリレリ

第 20 の 練習 読みなさい そして 各 単語の 母音を

göçürin.

göçürin.

gøtʃrɯŋ]

ギョチリユン

うつしなさい

El bilen ekerler,
El bilen ekerler,
[ʔel bilen ek'ɛrlɛr]

エル ビレン エケルレル

手 で 種まく

Dil bilen orarlar.

Dil bilen orarlar.

[dil wɪlɛn orɔrlɔr]

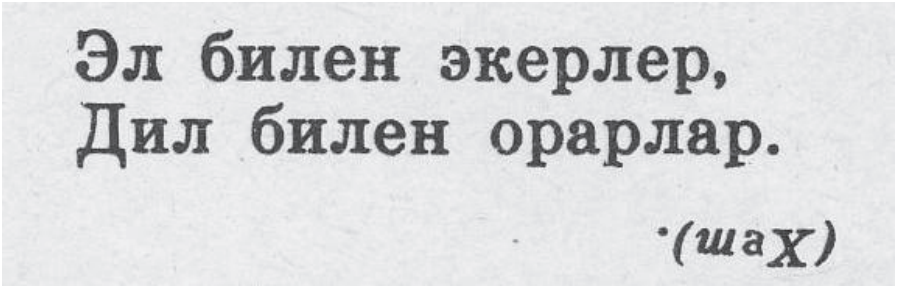
ドゥル ウィレン オロルロル

舌 で 刈る

Hat

ʃaH[ʃɑ:x]

ek-er-ler, or-ar-lar の動詞語幹は ek-と or-で、-er~-ar は未完了の連体・終止形活用語尾です。ことわざなどでよく使われる語尾で一般的な動作をあらわします。ここの2行は「なぞなぞ」で、答えの Xar「手紙」が逆に印刷されています。それに気づかずにそのまま読んでいます。



Эл билен экерлер,
Дил билен орарлар.

·(шаХ)

上記はキリル文字版教科書の原文ママです。Xat の筆記体 Xam がさか

さまに印刷されているのに、*uaX* (şaH) [ʃa:x]と読んでしまいました。
ちなみに、原文の a は逆さになっていません。印刷ミスでしょう。

<第21の練習省略>

<練習 22 : 本文>

22-nji gönükme

Şygry okaň we her sözdäki çekimsiz sesleri
aýdyp beriň.

Sähra.

Güller açyk,

Ýollar açyk.

Dünýä ýaly

Çöllер açyk.

Açyk biziň

Göwnümüzem.

Asmandaky

Günümüzem.

Açyk howa,

Açyk asman.

Biziň ile

Geliňmyňman.

<練習 22 : 解説>

22-nji gönükme. Şygry okañ we her sözdäki
Yıgırımı ikinci gönükme. Şıgırn okañ ve her sözdäki
[ji:rmkındʒı gø:nʏkmø ʃiʏri oqañ wə xer θø:ðdæk
ユールムキンジ ギョーヌクモ シュグル オカン ウェ ヘル ソーズデキ
第 22 の 練習 詩を 読みなさい そして 各 単語の

çekimsiz sesleri aýdyp beriñ.

çekimsiz sesleri aydıp beriñ.

tʃe:kımθz θe:θetɛrɪ 'ojdɪp berɪŋ]

チェーキムズ セーステリ アイドウップ ベリン
子 音を 言って ください

Sähra.

Sährä. [θæ:xr] セーハル 野原

Güller açyk,

Güller açık, [gʏlløer atʃik] ギュルレル アチュク 花 ひらき

Ýollar açyk..

Yöllar açık. [jo:lløer atʃik] ヨールロル アチュク 道 ひらく

Dünýä ýaly

Dünýä yalı [dʏn.je: ja:li] デュンイエ ヤール 世界 のように

Çöllar açyk.

Çöllar açık [tʃølløer atʃik] チョルリエル アチュク 砂漠 ひろい

Açyk biziñ

Açık biziñ [ʔatʃik biðɪŋ] アチュク ビジン 晴れやかな 私たちの

Göwnümüzem.

Göwnümüzem. [gøwnʏmʏðm] ギョウヌムズム 心も

Asmandaky

Asmandakı [ʔaθmanda:ki] アスマンダーク 空の

Günümüzem

Günümüzem. [gʏnʏmʏðm] ギュヌムズム 太陽も

Açyk howa

Açık hovā [ʔatʃik xo:wa] アチュク ホーワ 晴れた 天気

Açyk asman.

Açık asmān [ʔatʃik aθman] アチュク アスマン 明るい 空

Biziñ ile.

Biziñ ĩle. [bıðıñ i:lɛ] ビジン イーレ 私たちの 地方へ

Geliñ myhman.

Geliñ myhmān.[gɛlɛŋ mɪ:xman]ゲレン ミーフマン いらっしゃい お客さん

Göwn-ümüz-em の語幹は göwün で法則どおり ü が落ちています。-em は hem 「も」の短い形です。Men-em gel-di-m. 「私も来た」。

Gün-ümüz-em も上におなじ。

ĩl-e では Biziñ があるためĩl につく人称語尾-imiz を省き、1行4音節にそろえてあります。

<第23の練習省略>

<練習 24 : 本文>

24-nji gönükme

Olary Maral Geldiyewa okadýar. Okuwçylar öz mugallymalaryny gowy görýärler. Mugallymalary çagalara ýazmagy, okamagy öwredýär. Tertipli bolmalydygyny aýdýar.

<練習 24 : 解説>

24-nji gönükme.

Yigrimi dördünci gönükme.

第 24 の 練習

Olary Maral Geldiyewa okadýar. Okuwçylar öz

Oları Maral Geldiyewa okadyär. Okuvçılar öz

かれらを マラル ゲルディニワが 教えている 生徒たちは 自分の

mugallymalaryny gowy görýärler. Mugallymalary çagalara

mugallımalarını govı görýärler. Mugallımaları çagalara

女先生を 愛している その女先生は こどもたちに

ýazmagy, okamagy öwredýär. Tertipli bolmalydygyny aýdýar.

yazmagı, okamağı övredyär. Tertipli bolmalıdığını aydyär.

書くことを 読むことを 教えている きちんと しなければならない と言っている

öwred-ýär の語幹は öwret-。

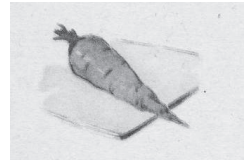
tertîp-li の語幹は tertîp 「順序、規律」。

bol-maly-dyg-y-n-y と分析し、-maly(-meli)は必要・義務を示す終止・連体形の活用語尾で、たとえば Nāme aýtmaly! 「なにを言うべきか」など。
-dyg については第 1 の練習のあとに出てきました。 <第 25,26 の練習省略>

<練習 27 : 本文>

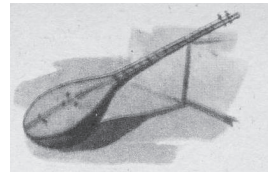
27-nji gönükme

Sary agam içerde,



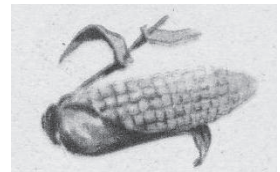
Gökje goly daşarda.

Elinde hasasy, simdendir, bagy,



Kellesi aşakda, kändir guşagy.

Dolama dokuz dony bar,



Bir topbajyk özi bar.

<練習 27 : 解説>

Yıgırımı yedinci gönükme.

第 27 の 練習

Sāri āgam içerde,

黄色い 兄さん その内に

Gökce golı daşarda.

青く 腕は その外に

Elinde hasāsı, simdendir, bāgı,

手には つえ 針金の ひも

Kellesi aşākda, kāndir guşagı.

頭は 下で たくさんの 帯

Dolama dokuz dōnı bār,

包んだ 9 枚の ガウン あり

Bir topbacık ōzi bār.

ひと 山ほどの 自分 あり

Sāry は「黄色」だが、赤みがかったものもふくむようです。

āga-m 「私の兄」。

iç-er-de, daş-ar-da は iç 「内」、daş 「外」に場所を示す-er~-ar がついた形ですが、単独では içeri, daşary を使います。

Gök-je の-je は副詞をつくる接尾辞です。

gol-y 「その腕」。

El-i-n-de 「その手に」。

hasā-sy 「そのつえ」。

sim-den-dir 「針金からなっている」。

bāg-y 「そのひも」。

Kelle-si 「その頭」。

kân-dir 「たくさんである」。

guşag-y 「その帯」 ←guşak。

Dola-ma の-ma(-me)は-mak(-mek)よりもいっそう名詞的な動名詞をつくる接尾辞ですが、連体用法もあります: asma köpri 「つり橋←as-つる」。
たびたび出てくる gönükme も gönük-「向かう」という動詞の名詞形です。

dön-y 「そのガウン」、d-の頭韻法。

topba-jyk の-jyk は指小接尾辞で、この語幹は topbak 「山づみのもの」:
köpri 「橋」 →köprüjik 「小橋」。

<第28の練習省略>

< 練習 29 : 本文 >

29-nji gönükme

Gurjak

Aglama, gurjak,

Seni eý görjek.

Tikip, täzeje

Köýnek geýdirjek.

Onsoň bileje,

Ýöräp çalaja,

Gideris бага

Biz gezelenje.

<練習 29 : 解説>

29-njy gönükme

Yıgrimi dokuzuncı gönükme

第 29 の 練習

Gurjak

Gurcak

人形

Āglama, gurcak,

泣くな 人形

Seni ey görcek.

お前を 大事にするよ

Tikip tãzece

縫って 新しく

Köynek geydircek.

シャツ 着せてやるよ

Onsoñ bilece,

そのあと いっしょに

Yörãp çalaca,

歩いて ゆっくり

Gideris bāga

行くのだ 公園に

Biz gezelence.

私たち 散歩に

āgla-ma の -ma(-me) は否定の接尾辞で、否定語幹そのままの形は命令形です。動名詞の -ma(-me) と同形ですが、文脈によって判断できます。否定のときのアクセントは āgláma。

eý gör- 「大切に作る、かわいがる」; -jek(-jak)は確信的な予定を示す終止・連体形の活用語尾で、たとえば Howā bū gün gaty gyzjak. 「天気は今日かなり暑くなるだろう」。

tik-ip の語幹は tik-。

tāze-je の-je(-ja)は副詞をつくる接尾辞。

geý-dir-jek の-dir は使役の接尾辞-d^{or} で、l,r をのぞく子音おわりの語幹につきます。

bile-je, çala-ja の-je(-ja)も副詞をつくる接尾辞。

Ýörâp の語幹は ýöre-で、-ip がつくとヨレープのように語幹末母音が長く発音されます。

Gideris の語幹は git-。

gezelenj-e の語幹は gezelenç です。

<練習 30 : 本文>

30-njy gönükme

Traktorçy

Aman kolhozda traktorçy bolup işleýär. Ol öz süryän traktoryna örän gowy seredýär. Traktoryny hemişe arassa saklaýar. Onuň traktory saz işleýär.

<練習 30 : 解説>

30-njy gönükme.

Otuzıncı gönükme.

第 30 の 練習

Traktorçı.

トラクター運転手

Aman kolhozda traktorçı bolup işleyär.

アマンは コルホーズで トラクター運転手 として 働いている

Ol öz süryän traktorına örän govı seredyär.

かれは 自分が 運転している トラクターを 大へん よく 世話している

Traktorını hemişe arassa saklayär.

そのトラクターを いつも きれいに 世話している

Onuñ traktori sâz işleyär.

かれの トラクターは 正常に 動いている

Otuzynjy の語幹は otuz「30」。2~9 とことなり 20~90 はつぎのよう
ですから、別におぼえる必要があります。20 ýigrimi, 30 otuz, 40 kyrk, 50 elli,
60 altmyş, 70 ýetmiş, 80 segsen, 90 togsan。

bol-up は「あって、なって」ですが「として」訳せる場合です。

sür-ýän の-ýän(-ýän)は未完了・進行を示す連体形語尾です。修飾構造
は-en~-an と同じです。

<練習 31 : 本文>

31-nji gönükme

Altyn ýyldyz dakarys

Ýolkamyzyň başyna.

Täze ýylda şatlanyp,

Aýlanarys daşyna.



<練習 31 : 解説>

31-nji gönükme.

Otuz birinci gönükme.

第 31 の 練習

Altın yıldız dakarys

金の 星を つけます

Yolkamızın başyna.

モミの木の 頭に

Täze ýylda şatkanyp,

新しい 年に 楽しんで

Aýlanarys daşyna.

回ります その外を

dak-ar-ys の語幹は dak-。

Ýolka-myz-yň 「私たちのモミの」。

şāt-lan-yp の-lan(-len)は名詞・形容詞 şāt 「楽しさ (い)」を自動詞化する接尾辞です。güýç 「力」→güýçlen- 「強くなる」など。

Aýlan-ar-ys の語幹は aýlan- ; Aý ýer-in daş-y-n-a aýlan- 「月は地球の外を回る」。

<練習 32 : 本文>

32-nji gönükme

Surata seredip, soraglara dilden jogap beriň.



Soraglar:

1. Bir ýylda näçe pasyl bar?
2. Häzir ýylyň haýsy pasly?
3. Ýerde näme bar?
4. Adamlar gyşda nähili eşik geýýärler?
5. Ýaşajyk okuwçylar nirä girip barýarlar?

<練習 32 : 解説>

32-nji gönükme. Surata seredip, soraglara dilden
Otuz ikinci gönükme. Sūrata seredip, sōraglara dilden
第 32 の 練習 絵を 見て 質問に 口で

jogap beriñ.

cogāp beriñ.

答えを 与えなさい

Sōraglar:

質問

1. Bir yılda nāçe pasıl bār?

1 年に いくつ 季節が ある

2. Hāzır yılın haysı paslı?

いまは 年の どの 季節

3. Yerde nāme bār?

地面に なにか ある

4. Ādamlar gışda nāhili eşik geyyārler?

人びとは 冬に どんな 服 着ている

5. Yāşacık okuvçılar nīrā girip baryārler?

かわいい 生徒たちは どこへ 入って 行く

dil-den 「舌・ことばによって」ですが「口頭で」ということ。

pasyl~pasl-y では第 2 音節の y が落ちます。第 10 の練習のところで出した法則の例外ですが、この単語はアラビア語の fasl から来ていて、もともと狭母音はありませんでした。外来語では、こうした例がよくあります。

nīrā は nīre 「どこ」の方向格の形で、発音はニーレーとなります。

<練習 33 : 本文>

§ 3. Ýogyn we inçe çekimli sesler.

33-nji gönükme

1. Okuwçylar oýun oýnamaga taýýarlanýarlar. 2. Oraz haty arassa ýazýar. 3. Kolhozçylar ýerleri ekişe taýýarladylar. 4. Olar mekdebe irden gidýärler.

<練習 33 : 解説>

§ 3. Ýogyn we inçe çekimli sesler.

Üçünci paragraf. Yogın ve inçe çekimli sesler.

第 3 節 あと と まえの 母 音

33-nji gönükme.

Otuz üçünci gönükme.

第 33 の 練習

1. Okuwçylar oyun oynamaga tayýarlanylýarlar.

生徒たちは 劇を 演ずるために 準備している

2. Oraz hatı arassa yazıār.

オラズは手紙をきれいに書いている

3. Kolhozçılar yerleri ekişe tayyārladılar.

コルホーズの人びとは土地を種まき用に準備した

4. Olar mekdebe ĩrden gidıārler.

かれらは学校へ朝はやく行く

Ýogĳn は「太い、太った」、inçe は「細い、かん高い」ですが、音声学の用語としては、あと母音(y, u, o, a)とまえ母音(i, ü, ö, e, ä)をさします。

taýýār-lan-ýār-lar の-lan は形容詞 taýýār 「用意できている」を自動詞化したもの。

ek-iş-e の-(ý)°ş は動名詞化の接尾辞 ; ýag- 「降る」→ýagıyş 「雨」、oka- 「読む」→okaıyş 「読み方」。

taýýār-la-dy-lar の-la(-le)は他動詞化の接尾辞、ここでは ýerleri という直接目的語をとっています。-d° は完了の終止形活用語尾で、あとにつづく人称語尾は :

	単数	複数
第 1 人称	-m	-k
第 2 人称	-ñ	-ñiz~-ňyz

< 第 34~35 の練習省略 >

< 練習 36 : 本文 >

36-njy gönükme

Şygry labyzly okaň.

Keýjek

Keýjek, keýjek,

Tumşujagyň buz ýaly.

Seni günde sypalap,

Näçe söýsem, az ýaly.

Keýijegim, bäräk bak,

Gara gözüň balkyldar.

Arassa sen arassa,

Sütügiňde ýalkym bar.

<練習 36 : 解説>

36-njy gönükme. Şygry labyzly okaň.
Otuz altıncı gönükme. Şıgrı labızlı okaň.
第 36 の 練習 詩を 節をつけて 読みなさい

Keyicek.

カモシカさん

Keyicek, keyicek,

カモシカさん カモシカさん

Tumuşucagıñ büz yalı.

お前の鼻づら 氷 のよう

Seni günde sīpalāp,

お前を 毎日 なでて

Nāçe söysem āz yalı.

どんなに 愛しても 少ない ようだ

Keyicegim, bārık bak,

カモシカさん こっち 見て

Gara gözüñ balkıldār.

黒い お前の目は 光ってる

Arassa sen, arassa

きれいな お前 きれいだよ

Sütügiñde yalkım bār.

お前のうぶ毛に 光 あり

labyz-ly の語幹は labyz 「メロディー、旋律、ふし」。

keýijek の語幹は keýik 「ガゼル」で、指小接尾辞の -jek がつくとき語幹末の -k が落ちます。ほかに、köpük 「泡」→köpüjek 「小さい泡」、aýak

「足」→ayajyk「かわいい足」など。

Tumuşu-jag-yň の語幹は tumşuk「動物の鼻づら」で上に同じく-k が落ち、指小接尾辞-jak の-k は 2 人称単数の人称語尾のまえで有声化しています。「お前のかわいい鼻づら」。

günde-günde とくりかえすのが普通。

söý-se-m の-se(-sa)は仮定・条件を示す連用形活用語尾で、あとにつく人称語尾は-d° と同じものです。

Keýi-jeg-im「私のカモシカさん」。

bak は動詞語幹そのまま命令形。

balkylda-r は母音おわりの語幹に未完了の-ar(-er)がついたのでダールと発音。

Sütüg-iň-de の語幹は sütük。

【いろいろな単語 5】

<方角・方向の表現>

東	gündogar	gündogar
西	günbatar	günbatar
南	günorta	günorta
北	demirgazyk	demirgazık
上	üst	üst / ýokar yokar
下	ast	ast / aşak aşak
左	çep	çep / sol sol
右	sag	sag
前	öň	öň / huzur huzur / ileri ileri
後ろ	yz	ız / aňry aňry / syrt sırt

<練習 37 : 本文>

37-njy gönükme

Hekaýajygy üns berip okaň.

Ýagyş ýagýardy. Az wagtdan soň ýagyş diňdi.
Çagalar oýnamaga gtdiler. Olar arassa howada
hezil edip oýnadylar.

<練習 37 : 解説>

37-njy gönükme. Hekaýajygy üns berip okaň.

Otuz yedinci gönükme. Hekāyacığı üns berip okaň.

第 37 の 練習 短い 話を 注意して 読みなさい

Yagyş yagyardı. Āz wagtdan soň yagyş diňdi. Çagalar
雨が 降っていた 短 時間の あと 雨が やんだ 子どもたちは
oynamaga gtdiler. Olar arassa hovāda hezil edip oynadılar.
遊びに 出かけた かれらは きれいな 空気で 楽しんで 遊んだ

Hekāya-jyg-y 「小さい話を」。

üns ber- 「注意を与える」とは「注意する」という意味。

ýag-ýār-dy は進行形の-ýar に古い付属語*idi 「であった」がついたもので、疑問文では ýag-ýār my dy? のように dy が離れることがあります。

soñ は「…のあと、…を過ぎて」の場合、分離格の形につづきます。たとえば、sāgat ōn ikiden soñ 「時計 12 = 12 時過ぎに」。

hezil et- 「楽しむ」。

< 練習 38 : 本文 >

38-nji gönükme

Biziň kolhozymyza çagalar bagy bar. Myradyň ejesi çagalar bagynda işleýär. Ol çagalara erteki aýdyp berýär. Gyzykly gürrünler edip berýär. Çagalar onuň gürrüni üns berip diňleýärler.



<練習 38 : 解説>

38-nji gönükme

Otuz sekizinci gönükme

第 38 の 練習

Biziñ kolhozımızda çāgalar bāgı bār. Mırādıñ ecesi
私たちの コルホーズに 幼稚園 がある ムラートの 母は
çāgalar bāgında işleyār. Ol çāgalara erteki aydıp
幼稚園で 働いている かの女は 子どもたちに おとぎ話を 話して
beryār. Gızıklı gürrüñler edip beryār. Çāgalar onun
やっている おもしろく おしゃべりをして やっている 子どもたちは かの女の
gürrüñini üns berip diñleyārler.
お話を 注意 して 聞いている

Myrād-yñ で男の名は Myrāt 「ムラート」。

ece-si の-si は母音おわりの語幹につく限定語尾。

<練習 39 : 本文>

39-njy gönükme

1. Men her gün sabyn bilen yuwunýaryn. 2. Biz
okuwdan sebäpsiz galmaýarys. 3. Ertir klubda
oýun goýuljak.

<練習 39 : 解説>

39-njy gönükme

Otuz dokuzuncı gönükme

第 39 の 練習

1. Men her gün sâbın bilen yuvunyârn.

私は 毎 日 シャボン で 洗う

2. Biz okuvdan sebâpsiz gâlmayâris.

私たちは 授業で 理由なく 休まない

3. Ertîr klubda oyun goyulcak.

あす クラブで 劇が 行われる

ýuw-un-ýâr-yň の-un は再帰の接尾辞で、動作が動作主自身におよぶことを示し、「自分のからだや頭を洗う」。

okuw-dan gâl- 「学習から残る」とは「授業を休む」。

sebâp-siz の-s°z は-li~-ly の反対の「…を有しない」という形容詞をつくる接尾辞：suw 「水」→suwsuz çöl- 「水のない砂漠」。

goý-ul-の-ı は受け身の接尾辞。

<練習 40 : 本文>

40-njy gönükme

Bir guş tutdum, jany ýok,

Başyn kesseň gany ýok,

Içinde üç ýumurga,

Jüýjesiniň sany ýok.

(Gawun)

Бир гуш тутдум, жаны ёк,
Башын кесең, ганы ёк,
Ичинде үч юмуртга,
Жүйжесиниң саны ёк.

(H K 9 D J)

<練習 40 : 解説>

40-njy gönükme.

Kırkınıcı gönükme.

第 40 の 練習

Bir guş tutdum, cānı yök,

1羽の鳥をつかまえたいのちはない

Başın kesseñ gānı yök,

頭を切っても血はない

İçinde üç yumurtga,

その中に3つの卵

Cüyesiniñ sānı yök.

ひよこの数はない

(Gāvun)

baş-y-n(-y)「その頭を」ですが、7音節にそろえるため対象格の母音はぶかれています。

kes-se-ñ「お前が切っても」、-seは仮定・条件を示す活用語尾。

jüýje-si-niñ「そのひよこの」。

Gāvunは、このなぞなぞ matal の答えで逆に印刷されています。なぞなぞの内容はよくわかりません⁵。メロンですが、ウイグルからトルコまで広く生産されているラグビーボール大のおいしい瓜です。



←メロンを横に切った断面図

3つに分かれたわたが確認できます。

⁵ このなぞなぞの意味を補足解説します。まず、トルクメニスタンでは、トルクメニスタンメロン gāvun を鳥にたとえるようです。動物ではなく果実ですから、切っても血は出ません。メロンの中には、実の他に種とわたがあります。わたは3つに分かれているので、これを3つの卵にたとえたのでしょう。その卵から本物のひなが産まれるわけではないので、ひよこはいないとしたのでしょう。

<練習 41 : 本文>

41-nji gönükme



Okuwçylar irden mekdebe geldiler. Olar meýdançada bedenterbiýe etdiler. Jaň kakyldy. Okuwçylar klasa girdiler.

<練習 41 : 解説>

41-nji gönükme.

Kırk birinci gönükme.

第 41 の 練習

Okuwçylar İrden mekdebe geldiler. Olar meydānçada bedenterbiye

生徒たちは 朝はやく 学校に 来た かれらは グランドで 体操

etdiler. Cağ kakıldı. Okuvçılar klasa girdiler.

した 鐘が なった 生徒たちは 教室に 入った

Jaň kak-yl-dy.は「ベルが押された」という解釈もできるでしょう。

<練習 42 : 本文>

42-nji gönükme

1. Özünden ulyny sylamaly.
2. Özünden kiçini öýkeletmeli däl.
3. Mugallymyň aýdanlaryny üns berip diňlemeli.

<練習 42 : 解説>

42-nji gönükme.

Kırk ikinci gönükme.

第 42 の 練習

1. Özünden ulını sīlamalı.

自分より 大きい人を 尊敬しなければならない

2. Özüñden kiçini öykeletmeli dāl.

自分より 小さい人を 怒らせてはいけない

3. Mugallımın aydanlarını üns berip diñlemeli.

先生の 言ったことを 注意 して 聞かねばならない

Öz-üñ-den 「君自身より」。

uly は「大きい」という形容詞ですが、名詞につく語尾をつけると「大きい人、おとな」としても使えます。Kiçi 「小さい」も同様。

sıla-maly の-maly(-meli)は必要・義務を示す活用語尾ですが、人称変化はありません。

öyke-le-t-meli の第1次語幹は öyke 「怒り」、-le で動詞化、-t で使役形になっています。dāl デールは「…ではない」という意味の語で-meli とともに「してはいけない、すべきではない」となります。

ayd-an-lar-y-n-y と分析し、-an(-en)はすでに出ている完了の連体形語尾ですが、連体形は同時に名詞形でもありますから、「言ったこと」を意味します。

<第 43,44 の練習省略>

< 練習 45 : 本文 >

45-nji gönükme

Doktoryň gyzy

Bibiniň gurjagy köp.

Ol bir gurjagynyň

kellesini ak mata bilen

dandy. Ony prostyna

dolady.



Soňra:

《 Seniň kelläň agyrýardyr 》 diýip, onuň
goltugyna bir zat saldy.

<練習 45 : 解説>

45-nji gönükme.

Kırk bāşinci gönükme.

第 45 の 練習

Doktorıñ gızı.

医者の 娘

Bıbıñıñ gurcagı köp. Ol bir gurcagınıñ kellesini āk

ビービの 人形は 多い かの女は ある 人形の 頭を 白い

matā bilen dañdı. Onı prostına doladı.

布 で しばった それを シーツに くるんだ

Soñra:

あと

《Seniñ kellāñ āgıryārdır》 diyip, onuñ goltugına bir zāt

お前の 頭が 痛むのね と言って その わきの下にある ものを

saldı.

入れた

gurjag-y の語幹は gurjak。

kelle-si-ni 「その頭を」。

prostyn-a ロシア語 простыня からの借用。

kellā-ñ はケルレーン←kelle。

āgyr-ýār-dyr の dyr は「…である」という念おしの付属語です。

goltug-y-n-a の語幹は goltuk。

<練習 46 : 本文>

46-njy gönükme

1. Biz şat durmuşda ýaşayarys. 2. Biziň
ýurdumyzda gyzykly ýerler köp. 3. Biz dynç günü
şähere gitjek.

<練習 46 : 解説>

46-njy gönükme.

Kırk altıncı gönükme.

第 46 の 練習

1. Biz şat durmuşda yāşayārys.

私たちは 楽しい 生活を 送っている

2. Biziň yūrdumyzda gyzıkly yerler köp.

私たちの 国には おもしろい ところが 多い

3. Biz dīnç günü şähere gitcek.

私たちは 休 日に 町へ 行くつもり

< 練習 47 : 本文 >

47-nji gönükme

Haýwanat bagynda.

Aşgabatda haýwanat bagy bar. Biz haýwanat bagyna gitdik. Ol ýerdäki haýwanlary gördük. Mugallymymyz bize şol haýwanlar hakda gürrüň berdi.

Soraglar:

1. Nirede haýwanat bagy bar?
2. Biz nirä gitdik?
3. Ol ýerde nämeleri gördük?
4. Kim bize haýwanlar hakda gürrüň berdi?

<練習 47 : 解説>

47-nji gönükme.

Kırk yedinci gönükme.

第 47 の 練習

Hayvânât bāğında.

動物 園で

Aşğabatda hayvânât bāğı bār. Biz hayvânât bāğına gitdik.

アシガバトに 動物 園 がある 私たちは 動物 園へ 行った

Ol yerdäki hayvânları gördük. Muğallımımız bize şol hayvânlar

そ この 動物を 見た 先生は 私たちに その 動物

hakda gürrüñ berdi.

について 話を した

Sōraglar:

質問

1. Nĭrede hayvânât bāğı bār?

どこに 動物 園 があるか

2. Biz nĭrā gitdik?

私たちは どこへ 行ったの

3. Ol yerde nāmeleri gördük?

そ こで 何を 見たか

4. Kim bize hayvânlar hakda gürrüñ berdi?

だれが 私たちに 動物 について 話を したか

git-di-k, gör-dü-k の-k は第 1 人称複数を示す人称語尾、-d° と -se~ -sa だけにつきます。

hakda は hakynda ともいいます。

<練習 48 : 本文>

48-nji gönükme

1. Maral çagalara erteki aýdyp beryär. 2. Okuwçy
örän arassa bolmalydyr. 3. Biz hemişe tertipli
bolmalydyrys.

<練習 48 : 解説>

48-nji gönükme.

Kırk sekizinci gönükme.

第 48 の 練習

1. Maral çagalara erteki aýdyp beryär.

マラル (女名) は こどもたちに おとぎ話を して やっている

2. Okuwçy öpän arassa bolmalıdır.

学生は 大へん きれいで あるべきだ

3. Biz hemişe tertipli bolmalıdırıs.

私たちは いつも きちんとして いるべきだ

< 練習 49 : 本文 >

49-njy gönükme

Öseliň, tiz öseliň!

Baglarda ter açylan

Parlak elwan gül ýaly,

Öseliň, tiz öseliň,

Parlap barýan Gün ýaly.

Ylymdan paý alýarys

Mekdebiň gujagynda.

Köp iş garaşýar bize

Ýurduň her künjeginde..

Magdany köp tapýarys,

Güller açýar çölümüz.

Öseliň, tiz öseliň,

Garaşyp dur ilimiz.

Ululara el berip,

Aya uçalyň, dostlar.

Gizlin syrly zatlarıň

Syryn açalıň, dostlar.

Watanymyz garaşýar,

Öseliň, tiz öseliň.

Ösmek bize ýaraşýar,

Öseliň, tiz öseli

N. Baýramow

<練習 49 : 解説>

49-njy gönükme.

Kırk dokuzuncı gönükme.

第 49 の 練習

Öseliñ, tız öseliñ!

大きくなろう はやく 大きくなろう

Bāglarda ter açılan

庭に 新しく 咲いた

Parlak elvān gül yālı,

輝く 赤い バラ のように

Öseliñ, tız öseliñ,

大きくなろう はやく 大きくなろう

Parlāp baryān Gün yālı.

輝き つづけている 太陽 のように

Ilımdan pāy alyāris

学問から 分けまえを 得ています

Mekdebiñ gucagında.

学校の ふところで

Köp iş garaşyār bize

多くの 仕事が 待っている 私たちに

Yürduñ her künceginde.

国の 各 地で

Magdānı köp tapyāris,

鉱石を たくさん さがします

Güller açyār çölümüz.

花が 咲いている われらの砂漠

Öseliñ, tız öseliñ,

大きくなろう はやく 大きくなろう

Garaşıp dur ilimiz.

待って いる みんなが

Ululara el berip,

おとなたちに 敬意を 表して

Āya uçalıñ, dōstlar.

月へ とぼう 友よ

Gizlīn sırlı zātlarıñ

秘密の かくれた ものの

Sırın açalıñ, dōstlar.

秘密を あかそう 友よ

Vatanımız garaşyār,

わが祖国は 待っている

Öseliñ, tız öseliñ.

大きくなろう はやく 大きくなろう

Ösmek bize yaraşyār,

成長は 私たちに あっている

Öseliñ, tız öseliñ.

大きくなろう はやく 大きくなろう

N. Bayramov

Ös-eliñ の-eliñ は命令形第 1 人称複数の語尾です。命令形の語尾は、つぎのようになっています：

	単数	複数
第 1 人称	-eýin～-aýyn	-eliñ～-alyñ 〈-eli～-aly〉
第 2 人称	語幹そのまま	-(°)ñ

第 2 人称は相手にある動作をさせる命令で、複数形を単数に使用すれば敬語になります。しかし第 1 人称に単数では話し手の意志を示し、その複数形は相手とともにする意志、したがって勧誘を示します。〈-eli～-aly〉は話し手と相手がひとりずつの場合をされています。

Parlāp bar-「輝いていく」は継続のアスペクトを示します。

gujag-y-n-da の語幹は gujak。

künjeg-i-n-de もおなじく künjek。

dur は動詞 dur-「立っている」の語幹ですが、命令形としてではなく、-p dur の形で継続状態のアスペクトを示します。

el ber-という慣用句は「ゆずる、一目を置く」という意味をあらわします。Syr-y-n(y)は 7 音節にそろえるため、対象格の母音がはぶかれています。

<第 50,51 の練習省略>

< 練習 52 : 本文 >

52-nji gönükme

Jigime.

Gül, oýna, ulal, jigim,

Gurjagyny al, jigim!

Uly iliň içinde

Abraýly bol, jigim!

Seýle çykaly, jigim,

Güle bakaly, jigim!

Ýürekde gany galmasyn,

Läle kakaly, jigim!

A. Omarowa.

<練習 52 : 解説>

Elli ikinci gönküme

第 52 の 練習

Cigime.

わが妹へ

Gül, oyna, ulal, cigim,

笑え 遊べ 大きくなれ 妹よ

Gurcagını al, cigim!

お前の人形を 持て 妹よ

Ulı İliq içinde

おとなの 中で

Ābraylı bol, cigim!

立派に なれ 妹よ

Seyle çıkalı, cigim,

散歩に 出よう 妹よ

Güle bakalı, cigim!

花を 見よう 妹よ

Yürekde gamı gālmasın,

心に 心配が 残らぬように

Läle kakalı, cigim!

少女の詩を つくろう 妹よ

A. Omarova

Jigi-m-e と分析されます。

Uly il 「大きい人びと」の意。

Seý-le の語幹は seýil で第 2 音節の狭母音が落ちます。

çyk-aly の-aly は一対一の勧誘。

Gül-e bak-aly で bak- 「見る」という動詞は方向格を要求します。

gāl-ma-syn の-s'n は第三者（人や物）に対する願望を示す語尾で、ここでは「心配がないように」。Ýöluňyz āk bolsun! 「あなたの道が白くありますように＝道中ご無事で」、Yāşasyn! 「万歳！」。

<第 53～57 の練習省略>

<練習 58 : 本文>

58-nji gönükme

Meniň kakam awçy. Ol bir gün awa gitdi.
Öýlänler dolanyp geldi. Kakam iki sany tilki
tutupdyr.

<練習 58 : 解説>

Elli sekizinci gönükme

第 58 の 練習

Meniň kākam āvçı. Ol bir gün āva gitdi. Öýlänler
私の 父は 猟師 かれは ある 日 狩に 行った 午後に

dolanıp geldi. Kākam iki sānı tilki tutupdır.

帰って きた 父は 2 ひきの キツネを つかまえてきた

Öylān-ler 複数は「ぼかし」の手法、「昼すぎごろ」。

tut-up-dyr の-°pdir~-°pdyr は完了を示し、話し手が現在に重点をおいて述べる形です。

<第 59～71 の練習省略>

<練習 72 : 本文>

E⁶ harpy çekimliden soñ ýe okalyar.

Meselem: geýer, diýer, söýer, düýe.

72-ji gönükme.

Okañ, soñra, göçürin.

1. Meniñ diýen zatlarymy aýdyň.
2. Geýen geýimi özüne gelişýär.
3. Munuñ eýesi nirede?

⁶ キリル文字版をラテン文字版に移行しているため、ここではキリル文字 E の説明となっています。キリル文字の E, e はラテン文字では ýe と表記されます。

4. Oraz öýe gaýtdy.

Çekimli sesden soň ýe harpy gelen sözleriň
aşagyny çyzyň.

Matalyň manysyny depderiňize ýazyň.

Atdan beýik, itden pes.

<練習 72 : 解説>

E harpy çekimliden soň ye okalyär. Meselem: geyer,

E 字は 母音の あとで ye と読まれる たとえば 着る

diyer, söyer, düye.

言う 愛する ラクダ

Yetmiş ikinci gönükme. Okaň, soňra göçüriň.

第 72 の 練習 読みなさい そのあと うつしなさい

1. Meniň diyen zätlerimi aydın.

私の 言った ことを 言いなさい

2. Geyen geyimi özüne geliştür.

着た 服は 自分に にあう

3. Munuñ eyesi nirede? 4. Oraz öye gaytdı.

この 持ち主は どこに オラズは 家へ 帰った

Çekimli sesden soñ e harpı gelen sözleriñ aşāgını

母 音の あとに e 字が 来ている 単語の 下に

çızıñ.

線を引きなさい

Matalıñ mānısını depderiñize yazıñ.

なぞなぞの 意味を ノートに 書きなさい

Atdan beyik, itden pes.

馬より 高い 犬より 低い

zāt-lar-ym-y と分析します。

ōz-ü-n-e 「その本人に」

māny-sy-ny の語幹は māny。

Atdan … このなぞなぞの答えは「鞍」。トルコ語では Attan yüksek, itten alçak といいます。

<第 73～79 の練習省略>

<練習 80 : 本文>

80-nji gönükme

1. Myrat ýorunja ýygýar. 2. Mamam jigime täze yorgan tikip berdi. 3. Ýolly obada ýaşaýar. 4. Biz ýonuşgalary çöpledik. 5. Ýokaň kesellerden goranyň. 6. Gelenleriň arasynda Sähat ýokdy. 7. Ýagşy bilen ýoldaş bolsaň, işiň bitirer. Ýaman bilen ýoldaş bolsaň, ýörän ýoluň ýitirer.

<練習 80 : 解説>

Segseninci gönükme

第 80 の 練習

1. Mirāt yorunca yıgyār.

ムラートは クローバーを 集めている

2. Māmam cigime täze yorgan tikip berdi.

おばあさんは 妹 (弟) に 新しい ふとんを 縫って やった

3. Yollı obada yāşayār.

ヨルルは 村に 住んでいる

4. Biz yōnuşğaları çöpledik.

私たちは かんなくずを 拾い集めた

5. Yokañ kesellerden gōranıñ.

伝染 病から 身を守れ

6. Gelenleriñ ārasında Sāhet yōkdı.

来た人たちの うちに サヘット (男名) は いなかった

7. Yağşı bilen yoldaş bolsañ, gālan ĩşıñ bitirer. Yaman bilen

善人 と 道づれ になれば 残った 仕事が 片付く 悪人 と

yoldaş bolsañ, yōrān yōluñ yitirer.

道づれ になれば 歩いた 道が なくなる

Māma-m は母方のおばあさん。

jigi は妹、あるいは弟も意味します。

çöp-le-di-k で çöp は「枯れ枝」。

Gel-en-ler-iñ の-en は連体形→名詞形。

āra-sy-n-da で āra は「あいだ、その中」。

yōk-dy は yōk に古い idi がついた形。

bol-sa-ñ 「お前がなれば」。

ĩş-iñ 「お前の仕事」。

yōrān の語幹は yōre-で連体形語尾-en とともにヨレーンと発音。

yōl-uñ 「お前の道」。

< 第 81~90 の練習省略 >

<練習 91 : 本文>

91-nji gönükme

1. Ýanky görülen oýun hakynda ýuwaşjadan
gürleşýärdik. 2. Sapar aga kolhozyň goýunlaryny
bakýar.

<練習 91 : 解説>

Togsan birinci gönükme

第 91 の 練習

1. Ýanky görülen oýun hakynda ýuwaşjadan gürleşýärdik.

いましてが 見た 劇 について ぼつぼつ 話しあっていた

2. Sapar āga kolhozyň goýunlaryny bakýar.

サパル 兄さんは コルホーズの 羊を 世話している

görülen の語幹は gör-に受け身の-ül がついて gör-ül-en ですが、規則どおり ü が落ちます。「見られた劇」という意味。

gürleş-ýär-di-k の-k は「われわれ」。

Sapar āga 名詞が語幹そのままの形で並ぶことは普通ありませんが、このように親族名称や称号のときは、語幹そのままの形で使えます：Gözel daýza「ギョゼルおばさん」、Doktor A.ただし、diş doktory「歯医者」。

<練習 99 : 本文>

99-njy gönükme

Bir ýylda on iki aý bar. Olar şeýle atlandyrylýar:
ýanwar, fawrar, mart, aprel, maý, iýun, iýul, awgust,
sentýabr, oktýabr, noýabr, dekabr.

<練習 99 : 解説>

Togsan dokuzuncı gönükme

第 99 の 練習

Bir yilda ön iki āy bār. Olar şeyle ātlandırılıyār:

1 年に 12 か月 ある それは 次のように 名づけられている

yanwar, fevrar, mart, aprel, may, iyun, iyul, avgust,

1 月 2 月 3 月 4 月 5 月 6 月 7 月 8 月

sentyabr, oktyab', noyabr, dekabr.

9 月 10 月 11 月 12 月

āt-lan-dyr-yl-ýār と分析し、āt アート「名」を自動詞化し、使役と受け身の接尾辞をつけた第4次語幹からなっています。使役と受け身の順序は、このように日本語とおなじく「させられ」となります。たとえば、döl-「満ちる」→döl-dur-「満たす」→döl-dul-yl-「満たされる」。

月の名はロシア語そのままです⁷。

<第100～118の練習省略>

<練習 119 : 本文>

§ 10. Dymyk k, p, t, ç sesleriniň açyga öwrülişi.

119-njy gönükme.

Okáý. Çyzygyň çep tarapyndaky sözleriň soňunda haýsy sesler bar? Olar çyzygyň sag tarapynda nähili seslere öwürlipdirler?

⁷ 2002年、ニヤゾフ元大統領によって、以下の月名が定められました。世代によっては、以下の月名を使っていましたが、2008年4月に元に戻す法案が出され、2009年以降は公には使われていません。参考までに記しておきます。Türkmenbaşy 1月、Baýdak 2月、Nowruz 3月、Gurbansoltan 4月、Magtymguly 5月、Oguz 6月、Gorkut 7月、Alp Arslan 8月、Ruhnama 9月、Garasşyzyk 10月、Sanjar 11月、Bitaraplyk 12月

Dodak

dodagy

Jorap

joraby

Sagat

sagady

Çekiç

çekiji

<練習 119 : 解説>

Önunci paragraf. Dımyk k, p, t, ç seslerinin açığa övrülüşi.

第 10 節 無声の k, p, t, ç 音の 有声に 変わる事

Yüz ön dokuzuncı gönükme. Okañ. Çızığıñ çep

第 119 の 練習 読みなさい 線の 左

tarapındaki sözleriñ soñunda haysı sesler bār? Olar çızığıñ

側にある 単語の 最後に どんな 音 があるか それらは 線の

sag tarapında nāhili seslere övrülipdirler?

右 側で どんな 音に 変わっているか

Dolak dolagı Corāp corābı Sāgat sāgadı Çekiç çekici

ゲートル 靴下 時計 ハンマー

dymyk は「息苦しい」ですが、音声学の用語としては「無声」、açyk が「有声」です。

övrül-iş-i と分析され、語幹は öwür-「変える」ですが、受け身すなわち自動詞化によって第 2 音節の-ü が落ちています。

<練習 120 : 本文>

120-nji gönükme

Soňunda dymyk **k, p, t, ç** sesleri bolan sözlere çekimli sesler goşulanda, olar açyk **g, b, d, j** seslerine öwrülyärler.

Meselem: ädik — ädigi, kitap — kitaby,
söwüt — söwüdi, çekiç — çekiji.

<練習 120 : 解説>

Yüz yigirminci gönükme

第 120 の 練習

Soňunda dymyk **k, p, t, ç** sesleri bolan sözlere çekimli sesler
最後に 無声の **k, p, t, ç** 音がある 単語に 母 音が
goşulanda, olar açyk **g, b, d, c** seslerine öwrülyärler.

加わったとき それらは 有声の **g, b, d, c** 音に 変わる

Meselem: ädik — ädigi, kitāp — kitābı, söwüt — söwüdi,

たとえば 長靴 本 ヤナギ

çekiç — çekici.

ハンマー

goş-ul-an-da の語幹は goş- 「加える、つける」、連体形と位置格で時点を示します。

<第 121～124 の練習省略>

<練習 125 : 本文>

125-nji gönükme

Nakyllar.

Öl agajy egmegin, degmedige degmegin. Düýä münüp, hataba bukma. Gerek deregi ýykar. Gulanyň ödi bolmaz, guşuň süýdi.

<練習 125 : 解説>

Yüz yigirmi başıncı gönükme

第 125 の 練習

Nakıllar.

ことわざ

Öl ağacı egmegin, degmedige degmegin. Düyâ müntüp,

ぬれた 木を まげるな ふれないものに ふれるな ラクダに 乗って

hataba bukma. Gerek deregi yıkar. Gulanıñ ödi bolmaz,

鞍木に かくれるな 必要は ポプラを たおす 野生のロバの 胆汁 ではなく

guşuñ süydi.

鳥の 乳

eg-me-gin の-g^ñ は相手にしてほしいという意欲を示す語尾です。

deg-me-dig-e は完了連体形の-dik に方向格がついた形です。ことわざの真意不明。

Düyâ は düye に方向格-e がついた形でデュイエーと読みます。

hataba は hatap「ラクダの鞍の木製部分」の方向格。このことわざは「のりかかった船」にちかい格言です。

Gerek… これは「好きこそものの上手なれ」。

öd-i, süyd-i の語幹は öt, süyt です。このことわざは「ありえないもの(こと)」をのべるときに使われます。bol-maz は bol-ar の否定の形です。トルコ語でも kuş sütü。

<第 126～130 の練習省略>

<練習 131 : 本文>

131-nji gönükme

Okaň we çyzygyň sag tarapyndaky sözlerden peýdalanyp, soraglara jogap ýazyň.

1. Kimiň jigisi?	Meret
2. Nämäniň sahypasy?	kitap
3. Nämäniň ýeňi?	köýnek
4. Nämäniň aýagy?	oturgyç

<練習 131 : 解説>

Yüz otuz birinci gönükme

第 131 の 練習

Okaň ve çyzygyň sag tarapyndaky sözlerden
読みなさいそして線の右側にある単語を

peydalanyp, soraglara cogap yazıň.

利用して 質問に 答えを書きなさい

1. Kimiņ cigisi? Meret

誰の 妹(弟) メレット

2. Nāmāniņ sahiņas? kitāp

なんの ページ 本

3. Nāmāniņ yeņi? kōynek

なんの 袖 シャツ

4. Nāmāniņ ayagi? oturgiç

なんの 足 腰かけ

peýdālan-という動詞は起点格を要求。

1.の答えは Merediņ jigi-si、2.は kitābyņ sahpa-sy、3.は kōynegiņ yeņ-i、
4.は oturgyjyņ aýag-y。

<第 132 の練習省略>

<練習 133 : 本文>

133-nji gönükme

At, saç, kök, çöp ýaly çekimlisi gysga aýdylýan
bir bogunly sözlerde dymyk çekimsizler açyga
öwrülmeyärler.

<練習 133 : 解説>

Yüz otuz üçünci gönükme

第 133 の 練習

At, saç, kök, çöp yalı çekimlisi gysga aýdylýan bir bogunly
馬 髪 根 ごみのように その母音が 短く 発音される 1 音節の
sözlerde dımık çekimsizler açyga öwrülmeyärler.

単語では 無声 子音が 有声に 変わらない

bogun-ly の -ly~li は「を有する」という意味の接尾辞、なお bogna 「音節へ」のような場合 u が落ちます。

<第 134~148 の練習省略>

<練習 149 : 本文>

149-njy gönükme

Sözlemleri okaň we ýogyn çekimlili bogunlary aýdyň.



Me-niň ka-kam kol-hoz-da go-ýun ço-pan bo-lup iş-le-ýär. Ol öz bak-ýan dowar-la-ry-na o-ňat se-red-ýär. Ge-çen ýyl ka-kam her ýüz e-ne go-ýun-dan bir ýüz ýig-ri-mi gu-zy al-ma-gy ba-şar-dy.

<練習 149 : 解説>

Yüz kırk dokuzuncu gönükme

第 149 の 練習

Sözlemleri okañ ve yogīn çekimlili bogunları aydın.

文を 読みなさい そして 後 母音の 音節を 言いなさい

Meniñ kākam kolhozda goyun çopan bolup işleyār.

私の 父は コルホーズで 羊 飼い として 働いている

Ol öz bakyān dovarlarına oñat seredyār. Geçen yıl

かれは 自分が 見ている 家畜を よく 世話している 去 年

kākam her yüz ene goyundan bir yüz yigrimi guzı

父は それぞれ 100 頭の 母 羊から 120 頭の 子羊を

almayı başardı.

得ることに 成功した

çekimli-li の-li は「を有する」という意味の接尾辞。

Geç-en の語幹は geç-「過ぎる」。

第 149 の練習のテキストはハイフンで切って、55 の音節からなっていることを示しています。音節は文法上の単位とことなり、音の単位ですから、ハイフンの使い方がちがいます。たとえば「馬へ」は文法的には at-a と切れますが、音節としては a-ta となります。いま長母音を含む音節も 1 音節として、先のテキストに見られる音節の型を数えると：

CVC	25
CV	24
VC	4
V	2
CVCC	0

これはトルクメン語の音節構造をよく反映しています。

<第150の練習省略>

<練習 151 : 本文>

151-nji gönükme

Ak saçly dag.

Gojalygyň çynmy seň,

Gyýçak-gyýçak gara dag?

Mydam süýnüp ýatyrıň,

Bagryň berip ýere, dag!

Jülgeleňde jereniň,

Gaplaň, ýolbars, goçuň bar.

Çür depäňde ap-akja

Gunduz ýaly saçyň bar.

Ýogsa-da sen saçyňdan

Yssyda iräýýäňmi?

Gyş bilen ýaz göterip,

Tomsuna syraýýaňmy?

<練習 151 : 解説>

Yüz elli birinci gönükme

第 151 の 練習

Āk saçlı dāg.

白 髪 の 山

Gocalığıň çinmi seň,

お前の老化は 本当か お前の

Gīyçak-gīyçak gara dāg?

とがったとがった 黒い 山

Mıdām süynüp yatırsıň,

いつも 身をのばして 寝ているお前

Bagrıň berip yere, dāg!

お前の腹を さしだし 大地に 山よ

Cülgelenđe cereniň,

お前の谷には ガゼルや

Gaplaŋ, yolbars, goçuŋ bār.

トラや ライオンや 雄羊 がいる

Çür depānde ap-ākca

お前の頂は 真っ白で

Gunduz yālī saçıŋ bār.

カワウソ のような 髪 がある

Yogsa-da sen saçından

もしかして お前は その髪に

Issıda ĩrāyyāŋmi?

暑さで うんざりしているのか

Gıŋ bilen yāz göterip,

冬 と 春を 持ちあげて

Tomsuna sĩrāyyāŋmi?

夏には さっぱりとするのか

これはむずかしい詩です。7 音節にそろえるため無理をしているようです。うまく訳せたでしょうか。

Goja-lyg-yñ の語幹は goja 「老人、年とった」で、-l'k は抽象名詞などをつくる接尾辞。

çyn-my の my~mi は疑問の付属語。

señ は seniñ をちぢめた形。

yāt-yr-syñ の語幹は yāt- 「横たわる」。

Bagr-yñ(-y) の語幹は bagyr 「肝臓」で規則どおり y が落ち、対象格の-y もはぶかれています。

Jülge-le-ñ-de では複数語尾をちぢめて人称語尾と 1 音節をつくっています : jülge-ler-iñ-de。

jeren-iñ と goç-uñ だけに人称語尾。

Çür depe-si という形で「絶頂」。

ap-āk-ja の語幹は āk「白い」。**-p** をくわえて形容詞の強調形をつくるため第1音節を反復させます。接頭辞ではありません。同様に gap-gara「真っ黒い」、sap-sāry「真っ黄色の」。

īr-āy-yār-iñ-mi? の短縮形。īr-は起点格について「あきあきする」。**-āy** ~ **-āy** は動詞語幹に意外性をあたえる接尾辞で、詩の最後の syr-āy-yār-yñ-my? も同様。

<第152~226の練習省略>

<練習 227 : 本文>

227-nji gönükme

Nokatlaryň ýerinde öz bilýän şäheriňiziň we obaňyzyň adyny ýazyp göçüriň.

1. Meniň ... şäherini göresim gelyär. 2. Biz şu tomus ... obasyny gezmäge gitjek. 3. Sen ... obasyny gördüňmi? 4. Men şäherini halaýaryn.

<練習 227 : 解説>

İki yüz yigirmi yedinci gönükme

第 227 の 練習

Nokatların yerine öz bilyân şäheriñiziñ ve öbäñiziñ

点線の ところに 自分が 知っている 町 (の) と 村の

ādını yazıp göçürin.

名を 書いて うつしなさい

1. Meniñ ... şäherini göresim gelyâr. 2. Biz şu tomus ...

私の 町を 見たい われわれは この 夏

öbasına gezmäge gitcek. 3. Sen ... öbasını gördüñmi?

村に 見物に 行くはず 君は 村を 見たか

4. Men ... şäherini hälayärin.

私は 町を 気にいっている

Meniñ は gör-esi-m の -m と呼応しています。-esi~ -asy は動名詞化の接尾辞で gel- とともに願望「したい」を示します。Okasyñ gelmeýärmi? 「君読みたくないのか」。

gez-mäg-e の -mäg は -mak~ -mek 動作名詞化の接尾辞の異形態です。前母音に続くときにあらわれることがあります。

gör-dü-ñ-mi? の mi~my は質問の付属語ですが正書法ではつづけて書かれます。疑問のことば(だれ kim、なに nāme、どこ nīre、いくつ nāçe、どれ haýsy、いつ haçan など)をふくまない疑問文のうしろによく使われます。Bu kitāp gyzyklymy? 「この本おもしろいか」。ただし、動詞の活用語尾によっては第 2 人称語尾のまえに mi~my が来る: Sen kitāplaryñy arassa saklaýärmyñ? 「君は本をきれいにしているか」。

<第 228-234 の練習省略>

235-nji gönükme

Aýlawda

Bu gün aýlawda adam köp.

Bu ýerde at çapylýar. Biziň



kolhozymyzyň Meleguş, Garaguş, Garlawaç diýen

atlaryny hem getiripdirler. Aýlawda goňşy

kolhozymynyň Ākguş, Ýyldyrym diýen atlary hem

bar. Bu atlar çapyljak. At çapysygy başlandy.

Ýaryşda Meleguş üstün çykdy. Akguş bolsa

pellehana ikinji bolup geldi.

<練習 235 : 解説>

İki yüz otuz başıncı gönükme

第 235 の 練習

Aylavda.

競馬場で

Bu gün aylavda ādam köp. Bu yerde at çapılıyār.

この日 競馬場には人が いっぱい ここで 馬が 走る

Biziñ kolhozımızıñ Meleguş, Garaguş, Garlavāç diyen

われわれの コルホーズの メレグシ ガラグシ ガルラワーチ という

atlarını hem getiripdirler. Aylavda goñsı kolhozımızıñ Ākguş,

馬 も 連れてきた 競馬場には とんりの コルホーズの アークグシ

Yıldırım diyen atları hem bār. Bu atlar çapılacak.

ユルドルム という 馬 も いる この 馬たちが 走るはずだ

At çapışıǵı başlandı. Yarışda Meleguş üstün çıkdı.

馬 の競走が はじまった 競争で メレグシが ぬきん でた

Ākguş bolsa pellehāna ikinci bolup geldi.

アークグシ は ゴール寸前 2位 になってしまった

üstün çyk-は慣用句で「勝つ」。

bol-sa は文字どおりには「であれば」ですが、とりたてて主題をのべる「…の方は」に当たります。

bol-up gel-di のような -p gel-は接近をあらわしますが、ここでは「もう少しで」という気持ちでしょう。なお馬の名前は、みんなはやそうです(ね(guş「鳥」)。

<第 236-342 の練習省略>

3. Görogly について（百科事典の解説）

Түркмен Совет Энциклопедиясы 2, 1979(『トルクメン・ソビエト百科事典』)から英雄叙事詩ギョログルウの解説をテキストに、日本語訳と注をつけてみます。

《Görogly》 — türkmen halkynyň meşhur eposy. Halkyň bu gahrymançylykly eposy 《Kerogly》 《Körogly》, 《Kereguly》 《Gurguly》 ady bilen hem bellidir. Taryhy maglumatlara görä, gahrymanyň asly türkmen bolsa-da, ol epos diňe bir Türkmenistanda däl, eýsem Özbekistanda, Täjigistanda, Gazagystanda, Garagalpagystanda, Azerbaýjanda, Kürdüstanda, Gruziýada, Ajarystanda, Dagystanda, Eýranda, Türkiýede, Bolgariýada hem ýaýrapdyr. Ilkibaşda Görogly(Körogly, Kerogly)batyr hakdaky rowaýat-aýdymlar, soňra bolsa ýörite dessan-epos takminan 400 ýyl dowamynda emele gelyär. Bu dessanyň dürli ülkelerde şöhrata eýe bolmagyna din, dil, millet aýratynlygy-da, yurt alyslygy-da päsgel berip bilmändir. 《G.》 eposynda zähmetkeşleriň antifeodal, watan, erkin ýaşayyş ugrundaky göreşi suratlandyrylýar. Eposdaky bir topar personažlar — Görogly, Öwez, Jygalybeg, Sanar köse, Mustapa, Taymaz, Däli Hasan, Hüňkar Soltan, MyratIII, Eýran şasy Apbas, Arap Reýhan taryhy şahslar bolup, Agaýunus, Gülrüh, Leke şa, Genjim, Bezirgen, Weli hyrtman we b. legendar obrazlardyr. Görogly (Körogly) 16 asyryň 2 ýarymynda — 17 asyryň 1 ýarymynda ýaşap, özüniň gaýduwsyzlygy, harbi guramaçylygy bilen tapawutlanan, şahyr-bagşylykdan hem oňat başy çykan adam bolupdyr. Ol daýhanlaryň, garip-gasarlaryň, jepakeş hünärmentleriň, çopanlaryň, ýesir düşenleriň gozgalaňlaryna ýolbaşçylyk edipdir, bu barada taryhçy A. Tabrizkiý özüniň 1662 ýyldaky ýazgysynda ynamdar maglumat berýär. Soňra 1721 ýylda Göroglynyň on üç sany şygryny ýanynyň rowaýatlary bilen täjir I.

Muşegýan ýazyp alýar we onuň patyşa-soltana boýun egmändigini, duşmana garşy dowamly hem batyrgaý urşup, söwdagär-bezirgenlerden köp paç alandygyny belleýär. Beýik Magtymguly hem gahrymanyň berk gala tutunyp, dagdan-daga at salyp, ägirt gujur-gaýrat görkezendigini özüniň goşgularynda ýatlaýar. Mysal üçin, bir şygrynda «Görogly dek dagdan-daga ugrasam» diýýär.

Eposyň dolurak teksti — 13 şahasy 1842 ýylda slawýan alymy A. Hod'zko tarapyndan inlis dilinde neşir edilipdir. Şol neşirde hem Göroglynyň öz töweregine garyp daýhanlary, demirçi-tikinçileri, aç-ýalaňaçlary üýşürüp, Eýran şasy Apbasa(1587-1628), türk soltany Myrat III-e (1574-95) garşy aldym-berdimli söweşendigi nygtalýar. Görogly diňe bir Türkmenistanyň territoriýasynda uruşman, eýsem Eýranda, Azerbaýjanda, Kürdüstanda, Kiçi Aziýada we ş. m. ýerlerde hem özüni tanadypdyr, hatda onuň nökerleriniň içinde şol ýurtlaryň köp wekilleri hem bolupdyr. Bu bolsa eposyň dürli ýerlere ýaýramagyna eltipdir. Eposyň esasynda 16-17 asyrlarda bolan antifeodal gozgalaňlar ýatsa-da, oňa 18-19 asyr wakalarynyň käbirleriniň siňdirilendigi ähtimaldyr (şa-feodallara garşy göreş, erkin ýaşayyş baradaky arzuw-niýetler). Şeýle hem has irki döwürlerdäki käbir wakalar, legendar-fantastik düşüňjeler, obrazlar hem yz galdyrypdyr (peri, döw, gyr at, Göroglynyň görden çykyşy we ş. m.).

Eposyň ençeme milli wersiýalarynyň arasynda ýakynlyk umumylyk bolmagy bilen birlikde, her halkyň öz wersiýa-wariantlary özüniňkidir. Olaryň haýsy birini alsan-da, oňa şol halkyň döp-dessury, bagşy-sazandalyk ýörelgesi, medeni-ýaşayyş aýratynlygy aýgytly täsir edipdir. Türkmenlerde bu epos 1941 ýylda 13 şahadan ybarat ve 1958 ýylda 14 şahadan ybarat aýratyn kitap edilip neşir edildi. Türkmenlerde onuň 40-dan gowrak şahasy bolmaly. Ýene her şahasynyň öz repertuary bar. Eposyň köp şaha-wariantlary Sowet häkimiýeti ýyllarynda bagşylardan ýazylyp alyndy.

《Görogli》 — türkmen halkınıň meşhür eposı. Halkıň bu
 ギョロオグルウ トルクメン 民族の 有名な 叙事詩。民族の この
 gahrimānçılıklı eposı 《Keroglı》 《Körogli》, 《Keregulı》 《Gurgulı》
 英雄 叙事詩は ケルオグルウ キョロオグルウ ケレグルウ グルグルウ
 ādı bilen hem bellidir. Tārīhı maglūmātlara görā, gahrimānıň
 の名 で もまた 知られている。歴史的 情報に よれば この英雄の
 aslı türkmen bolsa-da, ol epos diňe bir Türkmenistānda
 出身は¹トルクメン人 であるとしても²この 叙事詩は 単に 一 トルクメニスタンに
 dāl, eysem Özbekistānda, Tāciğistānda, Gazagistānda,
 ではなく 実は ウズベキスタンに タジキスタンに カザックスタンに
 Garagalpagistānda, Azerbaycanda, Kürdüstānda, Gruziyada,
 カラカルパキスタンに アゼルバイジャンに クルディスタンに グルジアに
 Acaristānda, Dagistānda, Eyranda, Türkiyede, Bolgariyada
 アジャリスタンに ダゲスタンに イランに トルコに ブルガリアに
 hem yayrapdır. İlkibaşda Görogli (Körogli, Kerogli)
 も 広がっている。はじめに ギョロオグルウ(キョロオグルウ ケルオグルウ)
 bātır hakdakı rovāyat-aydımlar, soňra bolsa yörıte dessān-epos
 豪傑 に関する 伝承 歌が のちには 特異な 叙事詩が³
 takmīnan 400 yıl dovāmında emele gelyār. Bu dessānıň
 およそ 400 年 にわたって 作られている。この 叙事詩が⁴

¹ asl-ı の単独の語幹は asıl で、狭母音が落ちますが、これはアラビア語 asl から来たもの。

² bolsa-da の da(de)は取立ての付属語で sen-de 「君も」、bildi-de 「知ったので」のように使われますが、仮定・条件の-se~sa とともに譲歩をあらわします。

³ dessān は *Türkmen Dilliniň Sözlügi* 1962 によると Halk dörediciligine ve klassıki edeb□yata hās bolan şıgır bilen kıssa gārişikli yazılan edeb□ eser (民衆芸術や古典文学に特有の詩と散文を混ぜて書かれた文学作品)

⁴ dessān-ıň ... şöhrāt-a eye bol-mag-ı-n-a において -ıň と -ı で大きな名詞句をつくっていますが、「叙事詩が」と訳した方がわかりやすい。「名声に所有者となること」とは「有名になること」。

dürli ülkelerde şöhrata eye bolmagına dîn, dil, millet
様々な 地方で 名声を 獲得 するのに 宗教 言語 民族
ayrafînligı-da, yürt alıslığı-da päsgele berip bilmändir.

の特性 も 国土 の遠さも 妨害を 与え えなかつたのである⁵。

《G.》 eposında zähmetkeşlerin antifeodal, vatan, erkin yāşayış

G 叙事詩には はたらくものの 反封建 祖国と 自由な 生活

ugrundaki göreşi sūratlandırılıyār. Eposdaki bir topar personajlar —
のための⁶ 闘争が えがかれている。叙事詩中の 一 群の 登場人物：

Göroglı, Övez, Cıgalıbeg, Sanar köse, Mustapa, Taymaz,
ギョルオグルウ オエウエズ ジュガルベグ サナル キョセ ムスタパ タイマズ
Dāli Hasan, Hünkar Soltan, Mırāt III, Eyran şāsı Apbas, Arap
ダーリ ハサン ヒュンカル ソルタン ムラート3世 イラン 王 アッバス アラブ
Reyhan tārīhı şahslar bolup, Agayunus, Gülrüh, Leke şā,
レイハン は 歴史上の 人物 であり アガユヌス ギュルリュフ レケ 王
Gencim, Bezirgen, Veli hırtman ve b. legendar obrazlardır.
ゲンジム ベジルゲン ウェリ フルトマン などは⁷ 伝説上の 役者である。

Göroglı (Köroglı) 16 asırñ 2 yārımında — 17 asırñ
ギョルオグルウ(キョルオグルウ)は 16 世紀の 後半⁸ 17 世紀の

1 yārımında yāşāp, özünñ gayduvsızlığı, harbī guramaçılığı bilen
前半に 生き かけの 豪胆さと 戦闘 組織力と で
tapāvutlanan, şāhīr-bağsıcılıktan hem oñat başı çıkan ādam
他に秀で 吟遊詩作⁹ も よく わかつていた¹⁰ 人

⁵ -p bil-で可能をあらわします。bil-は「知っている」という意味ですが、Men yüz-üp bil-me-yār-in。「私は泳げない」のように使います。bil-mān-dir の-mān は否定の-me と連体形の-en がひとつになった形で、dir とともに完了を強調的に述べています。

⁶ ugr-u-n-dakı の語幹は ugr「方向、傾向、方策」で第2音節の狭母音が落ちました。

⁷ ve b.は ve başğalar とよみ「そのほか」「etc.」に当たります。

⁸ ikinci yārım, birinci yārım と読み、年月や世紀を2つに分けた後半と前半をあらわします：yanvarñ birinci yārım「1月の前半」。

bolupdır. Ol dayhānlarıñ, garīp-gasarlarıñ, cepākeş hünārmentleriñ,
であった。かれは 農民 貧民 勤勉な 職人

çopanlarıñ, yesir düşenleriñ gözgalañlarına yölbaşılık edipdir,
牧童 捕虜になった人々の¹¹ 蜂起に 指導的役割を はたした

bū bārada tārīhçı A. Tabrizskiy ōzüniñ 1662 yıldakı

これについては 歴史家 A. タブリズスキーが かれの 1662 年の

yazgısında inamdār maglūmāt beryār. Soñra 1721 yılda

文書で 信ずべき 情報を 提供している。のちに 1721 年に

Göroglıniñ ön üç sānı şıgrını yānınıñ rovāyatları bilen tācir

ギョルオグルウの 13 篇の 詩を それに付属した¹² 伝承 とともに 商人の

I. Muşegyan yazıp alyār ve onuñ pātişā-soltāna

I. ムシエグヤンが 書き とっている そして かれが 帝王に

boyun egmāndigini, duşmāna garşı dovāmlı hem bātırgay urşup,

屈服しなかったこと¹³ 敵に 対し つぎつぎと かつ 勇敢に たたかい¹⁴

sövdāgār-bezirgenlerden köp pāç alandığını belleyār.

商人たちから たくさんの 貢物を 取り立てたことを 記している。

Beyik Magtımghılı hem gahrımāniñ berk galā tutunıp,

偉大な マグトムグルウ¹⁵ も 豪傑が¹⁶ 堅固な 要塞を かまえ

⁹ başı は *Түркмен Дилиниң Сөзлүги* 1962 によると Türkmen millî aydım-sāzlarını aytmakda halkıñ içinde tanalıp, ōzüni görkezen ādam, aydımçı 「トルクメン民族歌謡や詩文を歌うことで庶民の間で知られ、その力を発揮した人、民謡歌手」。

¹⁰ başı çık- という慣用句は起点格とともに 「...が分かる」という意味：Men sūratdan kān bir başı çıkyān ādam dāl. 「私は絵のことをたくさん知っている人ではない」。

¹¹ düş-en-ler-iñ の語幹は düş- 「落ちる」。農民から捕虜までをすべて所属格で蜂起にむすびつけている点に注意してください。

¹² yān-i-niñ 「そのかたわらの」。

¹³ boyun eg- 「首をまげる」とは「降参する、服従する」；-mān は注 6 参照。

¹⁴ urş-up の語幹は uruş- で規則どおり u が落ちる。

¹⁵ Magtımghılı(1733-1783)はトルクメン古典文学の基礎を作った哲学者・詩人。

¹⁶ gahrımāniñ ... görkez-en-dig-i-n-i のように大へん長い名詞句になっています。注 5 参照。いつも所属格のゆくえに注目してほしい。

dāgdan-dāga at salıp, āgirt gucur-gayrāt görkezendigini ōzüniñ
山から山へ 馬を走らせ 巨大な力を 発揮したことを かれの
goşgularında¹⁷ yātlayār. Mısāl üçin, bir şıgrında «Göroglı dek
詩集で 回想している。たとえば ある 詩で「ギョルオグルウのように
dāgdan-dāga ugrasam» diyyār.

山から山へ 動けたら¹⁸」と言っている。

Eposıñ dōlurāk teksti — 13 şahası 1842 yılda slavyan
叙事詩の やや完全な¹⁹ テキストは その 13 篇分が 1842 年に スラブ
ālımı A. Hod'zko tarafından iñlis dilinde neşir edilipdir.

学者 A.ホジコ によって 英 語で 出版 されている。

Şol neşirde hem Göroglıniñ ōz töveregine garīp dayhānları,
その 版で も ギョルオグルウが²⁰ 身 近に 貧 農
demirçi-tikinçileri, aç-yalañaçları üyşürip, Eyran şāsı Apbasa
かじ屋 仕立て屋 衣食に苦しむ人びとを²¹ 集めて イラン 王 アッバス
(1587-1628), türk soltānı Mırat III-e (1574-95) garşı aldım-berdimli
(1587-1628) トルコ 帝 ムラート 3 世 (1574-95)に²² 対して 猛然と
söveşendigi nıgtalyār. Göroglı diñe bir Türkmenistāniñ
戦ったことが 力説されている。ギョルオグルウは 単に 一 トルクメニスタンの

¹⁷ goşgı の ı が、円唇同化によって u になっています。

¹⁸ 仮定・条件を示す連用形語尾-sa で文を中止すると、願望「...したいものだ」をあらわすことができます。

¹⁹ dōlu-rāk の語幹は dōlı で、「むしろ、やや、らしい」をあらわす-rāk(-rk)が接尾して語幹末母音が円唇化しています。ほかに boy-lı「体つきの」→uziñ boylurāk「むしろ背の高い」など。

²⁰ Göroglı-nıñ ... söveş-en-dig-i までつづく長い名詞句。注 5、16 参照。

²¹ 「腹がへってはだかの人びと」。

²² Apbasa () ... Mırat III-e () のように方向格語尾のあとに()があり、日本語では()のあとに格助詞=付属語が来ることに注目。なお格変化形がくりかえし使われることにも注意。

territoriyasında uruşmān, eysem Eyrandā, Azerbaycanda,
 領土で 戦ったのではなく²³ 実に イラン アゼルバイジャン
 Kürdüstānda, Kiçi Aziyada ve ş. m. yerlerde hem
 クルディスタン 小 アジア その他の²⁴ 地でも
 Ōzüni tanadıdır, hatdā onuñ nökerlerinin içinde şol yūrtların
 腕前を見せている そのうえ かれの 戦友の 中には その 国ぐにの
 köp vekilleri hem bolupdır. Bū bolsa eposıñ dürlü yerlere
 多くの 有力者 も いた。これ は 叙事詩が 様々な 地に
 yayramagına eltipdir. Eposıñ esāsında 16-17 asırlarda bolan
 伝わっていることと 関係する。叙事詩の 基礎に 16-17 世紀に 起こった
 antifeodal gōzgalañlar yatsa-da, oña 18-19 asır vākalarının
 反封建の 蜂起が 横たわっているが それには 18-19 世紀 の事件の
 kābirlerinin siñdirilendigi ähtimāldır (şā-feodallara garşı gōreş,
 いくつかが 吸収されている 可能性がある 王や領主に 対する 戦い
 erkin yāşayış bāradakı arzu- niyetler). Şeyle hem hās İrki
 自由な 生活 についての 願望と意向。そして また ずっと 早い
 dövürlerdäki kābir vākalar, legendar-fantastik düşünceler, obrazlar
 時期の いくつかの 事件 伝説的 幻想的 思考 人物
 hem iz gāldırıpdır (perī, döv, gır at, Göroglınıñ görden
 も 跡を 残している 仙女 妖怪 灰色の 馬 ギョルオグルウの 墓から
 çıkışı ve ş. m.).
 出たもの など。

Eposıñ ençeme millī versiyalarının arasında yakīnlık umūmlık
 叙事詩の 多 民族による 異説の あいだには 類似性と 共通性

²³ uruş-mān の -mān(-mān)は否定の連用中止形語尾「...せずに」で、-op の否定の形に相当します。

²⁴ ve ş. m.は ve şūña meñzeş(ler)と読み、「...とこれに類する (もの)」を意味します。

bolmağı bilen birlikde, her halkıñ öz versiya-variantları
 がある と ともに 各 民族の 自 説 異説は
 özüniñkidir. Olarıñ haysı birini alsañ-da,
 それ自身のものである²⁵ それらの どれか ひとつを とるとしても
 oña şol halkıñ dāp-dessūrı, bağısı-sazāndalık yörelgesi,
 それには その 民族の 習慣 民謡音楽 の伝統
 medenī-yāşayış ayrañınlığı aygıtlı tāsīr edipdir. Türkmenlerde
 文化 生活 の特性が 断然 影響 している。トルクメン人の手で
 bu epos 1941 yılda 13 şahadan ibārat ve 1958 yılda
 この 叙事詩は 1941 年に 13 篇から なるもの そして 1958 年には
 14 şahadan ibārat ayrañın kitāp edilib neşir edildi.
 14 篇から なる 別々の 本 として 出版 された。
 Türkmenlerde onuñ 40-dan govrāk şahası bolmalı.
 トルクメン人のところには その 40 からなる よりよい²⁶詩篇が あるにちがいない。

Yene her şahasınıñ öz repertuarı bār. Eposıñ köp
 また 各 篇の 上演目録 がある。叙事詩の 多くの
 şaha-variantları Sovet hākimiyeti yıllarında bağıslardan
 異 篇が ソビエト 政権 の多年にわたり 口誦詩人たちから
 yazılıp alındı.
 書き とられた。

なお Эпос СССР 「ソ連邦諸民族の叙事詩」の1冊に *Героглы, Түркмен
 Гахрыманчылык Эпосы*, Москва, 1983、804 ページという大著があります。

²⁵ 所属格に -ki(-kı) を接尾させて 「...のもの」をつくる : men-iñ-ki 「私のもの」。

²⁶ govı に -rāk が接尾したものを。

著者紹介

竹内 和夫 (たけうち かずお)

1927年 東京都生まれ

1952年 東京大学文学部言語学科卒業

現在 岡山大学名誉教授

『トルコ語文法入門』(1970)、『トルコ語辞典』(1987)、『現代ウイグル語四週間』(1989)、『トルコ語辞典 改訂増補版』(1996)、『日本語トルコ語辞典』(2000) いずれも大学書林 他著書・論文多数

福盛 貴弘 (ふくもり たかひろ)

1970年 大阪府生まれ

2003年 筑波大学大学院博士課程文芸言語研究科修了

現在 大東文化大学教授 博士(言語学)

『トルコ語の母音調和に関する実験音声学的研究』(2004、勉誠出版)、『旅のお供に 今すぐ使えるトルコ語入門』(デニズ・ビョケソイ共著、2006、勉誠出版)、『基礎からの日本語音声学』(2010、東京堂出版) 他著書・論文多数

奥 真裕 (おく まさひろ)

1987年 福岡県生まれ

2021年 東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期満期退学

現在 筑波大学特任研究員、東京外国語大学非常勤講師(トルクメン語)

これまで、トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学東洋言語学部、駐日トルクメニスタン大使館、在トルクメニスタン日本大使館に勤務。

『トルクメン語会話帳』(ロジクリエバ・ジェネット共著、2021、桜町出版)